

一般国道9号（東伯中山道路）の改築に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書XXIV

鳥取県東伯郡琴浦町・西伯郡大山町

UME DA KAYA UNE
梅田萱峯遺跡V

2009

鳥取県埋蔵文化財センター
国土交通省 倉吉河川国道事務所



調査区遠景(調査後：西から)

巻頭図版 2



1 SI50完掘状況(北から)



2 P300黒曜石出土状況(北から)



1 梅田萱峯墳丘墓全景(南東から)



2 梅田萱峯墳丘墓全景(北西から)



1 梅田萱峯墳丘墓P4掘り込み面(北東から)



2 同第1主体部墓壙断面(西から)

序

一般国道9号東伯中山道路の改築に伴う発掘調査は、平成12年度から行われ、平成20年度末時点で遺跡数は24遺跡、調査面積は延べ23万平方メートルに及んでいます。

この発掘調査は、平成17年度から鳥取県直営の事業となり、鳥取県埋蔵文化財センターが担当することとなりました。

そのうち、琴浦町及び大山町に所在する梅田萱峯遺跡では平成17年度から調査を行っており、これまでに弥生時代から古墳時代の集落跡や県内最古級の弥生墳丘墓、奈良時代の鍛冶関連の遺構などを検出するに至り、当地域の歴史を解明するための重要な資料を確認することができました。

また、埋蔵文化財センターでは、発掘調査により明らかとなった遺跡や出土品を活用し、その普及啓発に努めることも重要な業務としております。

平成21年度梅田萱峯遺跡では、3回に亘って現地説明会を開催したところ、県内外から多くの方々に御参加いただき、その素晴らしさ、重要性を実感していただきました。

本書はその調査結果を報告書としてまとめたものです。この報告書が、郷土の歴史を解き明かしていく一助となり、埋蔵文化財が郷土の誇りとなることを期待しております。

本書をまとめるにあたり、国土交通省倉吉河川国道事務所、地元関係者の方々には、一方ならぬ御指導、御協力を頂きました。心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

平成21年3月

鳥取県埋蔵文化財センター

所 長 久 保 穰 二 朗

序 文

一般国道9号は山陰地方を東西に結ぶ主要幹線道路であり、広域交通はもとより、観光交通、生活交通等、多様な交通を担う重要な路線として大きな役割を果たしています。このうち、国土交通省倉吉河川国道事務所は、東伯郡湯梨浜町から米子市(鳥取一鳥根県境)までを管轄しており、時代の要請に沿った各種の道路整備事業を実施しているところです。

東伯・中山道路は、東伯郡琴浦町から西伯郡大山町にかけての多種多様な交通による交通混雑の緩和、安全・円滑な交通の確保のほか、災害時の緊急輸送路の代替路線としての機能分担などを目的とし、さらに、山陰の地方都市間の連携を強化するとともに、環日本海交流の基幹軸の一翼を担う高規格幹線道路(自動車専用道路)として整備を行っています。

このルートには、多数の埋蔵文化財包蔵地がありますが、平成20年度は、「梅田萱峯遺跡」について鳥取県教育委員会と協議を行い、文化財保護法第94条の規定に基づき、鳥取県教育委員会教育長に通知した結果、事前に記録保存のための発掘調査を実施することとなり、鳥取県埋蔵文化財センターと発掘調査の委託契約を締結し、発掘調査が行われました。

本書は、当該遺跡の調査成果をまとめたものです。この貴重な記録が、文化財に対する認識と理解を深め、さらに、教育及び学術研究のために広く活用されることを願うと同時に、国土交通省においても文化財保護に努力していることをご理解いただければ幸いです。

事前の協議をはじめ、現地での調査から報告書の編集にいたるまで御尽力いただいた鳥取県埋蔵文化財センターの皆さまに、心から感謝申し上げます。

平成21年3月

国土交通省 倉吉河川国道事務所
所 長 日野 和弘

例 言

1. 本報告書は、国土交通省倉吉河川国道事務所の委託により、鳥取県埋蔵文化財センターが、一般国道9号(東伯中山道路)の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査事業として、平成20年度に行った梅田^{うめだ}萱峯遺跡及び梅田萱峯墳丘墓の発掘調査報告書である。
2. 本報告書に収載した遺跡の所在地及び調査面積は以下のとおりである。
梅田萱峯遺跡：東伯郡琴浦町大字梅田字後谷395-1、西伯郡大山町八重字萱尾ノ峰783-33ほか
調査面積：11,650㎡
3. 本報告書で示す標高は、3級基準点H10-3-16を基準とする標高値を使用した。方位は公共座標北を示す。磁北は、座標北に対し、約6° 27' 西偏する。なお、X：、Y：の数値は世界測地系に準拠した公共座標第V系の座標値である。
4. 本報告書に掲載した地形図は、国土地理院発行の1/50,000「伯耆浦安」「赤碕」、赤碕町(現琴浦町)の1/2,500「赤碕町都市計画図1」を使用した。
5. 本発掘調査にあたり、墳丘墓の調査について島根大学教授渡邊貞幸氏、徳島文理大学教授石野博信氏、鳥根県古代文化センター松本岩雄氏に、それぞれ指導助言いただいた。明記して深謝いたします。
6. 本報告にあたり、調査前・調査後航空写真撮影、調査前・調査後地形測量、出土炭化材の樹種同定・年代測定を業者委託した。
7. 本報告書に掲載した遺物の実測・浄書は埋蔵文化財センター及び同発掘事業室調査担当で行った。
8. 本報告書で使用した遺構・遺物写真は調査担当職員が撮影した。
9. 本報告書の執筆は調査担当職員が分担して行い、各文末または節末に文責を記した。本書の編集は湯村・濱本が行った。
10. 発掘調査によって作成された図面・写真などの記録類、出土遺物は鳥取県埋蔵文化財センターに保管されている。
11. 現地調査及び報告書作成にあたっては、下記の方々、機関に御指導・御協力いただいた。明記して深謝いたします。(五十音順 敬称略)
赤木三郎、石野博信、三枝健二、眞田廣幸、根鈴智津子、肥後弘幸、深澤芳樹、松本岩雄、渡邊貞幸、琴浦町教育委員会、大山町教育委員会

凡 例

1. 遺物の注記における遺跡名には「カヤウネ6」を略号とし、合わせて「遺構名、遺物番号、日付」を記入した。
2. 本報告書で用いた遺構の略号は以下のとおりである。
SI：竪穴住居跡 SS：段状遺構 SB：掘立柱建物跡 SX：土墳墓 SK：土坑 SD：溝 P：柱穴・ピット
3. 本調査における遺構番号は基本的には前回調査(4・5区)からの連番としている。
4. 発掘調査時における遺構名・番号と報告書記載時の遺構名・番号を、一部について変更したものがあある。新旧の遺構名・番号対照表は下表に示した。
5. 遺構図・遺物実測図の縮尺については、特に説明がない限り以下のとおりである。
竪穴住居跡・段状遺構・掘立柱建物跡・溝：1/60・1/80、土坑・鍛冶炉：1/20・1/40、炭化材出土状況・遺物出土状況：1/20、土器：1/4、石器：1/1・2/3・1/2・1/4、土製品・鉄製品・鉄滓：1/4、玉製品・玉作関連遺物：1/1・2/3
6. 本書における土層色調・土器色調は、基本的には『新版 標準土色帖』による。
7. 遺構図・遺物実測図に用いたトーン及び記号は、特に説明がない限り以下のとおりである。
■：地山 ■：貼床および周堤範囲 ■：焼土面 ■：炭化物集中層 ■：赤彩・赤色顔料付着範囲 S：石器 F：鉄製品・鉄滓 J：玉製品・玉作関連遺物
遺物出土ポイント：●(土器・土製品)・□(石器)・▲(鉄製品・鉄滓)・○(玉製品・玉作関連遺物)
8. 遺物実測図の断面は須恵器を黒塗り、鉄製品・鉄滓をトーンとし、それ以外のものは白抜きで示した。
9. 遺物観察表等の法量記載における※は推定復元値、△は現存値を示す。
10. 本報告書における遺構・遺物の時期決定は下記参考文献に基づいており、時期区分及び文章中の表記は下表に従っている。

参考文献

- 清水真一1992 「因幡・伯耆地域」『弥生土器の様式と編年－山陽・山陰編－』木耳社
 辻 信広1999 「弥生中期中～後葉の土器について」『茶畑山道遺跡』名和町教育委員会
 濱田竜彦2002 「洞ノ原墳墓群に関する一考察－洞ノ原1号墓・洞ノ原2号墓出土土器の再検討を中心に－」『妻木晩田遺跡発掘調査研究年報2001』鳥取県教育委員会
 松井 潔1997 「東の土器、南の土器－山陰東部における弥生時代中期後葉～古墳時代初頭の非在地系土器の動態－」『古代吉備』第19集
 牧本哲雄1999 「古墳時代の土器について」『長瀬高浜遺跡Ⅷ・園第6遺跡』財団法人鳥取県教育文化財団
 田辺昭三1981 『須恵器大成』角川書店

遺構名新旧対照表

新	旧
SI53	SK173
墳丘墓第2主体	SX17
SX17	SX18
SK158	SK188
SK173	SK189
SK188	SK141

編年対応表

		本書での表記		清水1992	辻1999	濱田2002	松井1997	牧本1999
弥生時代	中期	後葉	IV-1	IV-1	IV-1a	IV-1期	Ⅲ期	
			IV-2	IV-2	IV-1b	IV-2期	Ⅳ期	
			IV-3	IV-3	IV-2	IV-3期		
	後期	前葉	V-1	V-1		V-1期	Ⅴ期	
			V-2	V-2			Ⅵ期	
			V-3	V-3			Ⅶ～Ⅸ期	
古墳時代	前期	中葉	VI-1	VI-1			Ⅹ期	
	中期	前葉						天神川Ⅲ期
								天神川Ⅴ期
後期	中葉						天神川Ⅵ期	
		後葉					天神川Ⅷ期	
	前葉						天神川Ⅹ期	

目次

序	
序文	
例言	
凡例	
第1章 調査の経緯	(4) 鍛冶関連遺構 …………… 80
第1節 調査に至る経緯 …………… 1	第4節 時期不明の遺構 …………… 88
第2節 調査の経過と方法 …………… 2	(1) 掘立柱建物跡 …………… 88
(1) 調査区の名称と調査方法 …………… 2	(2) 土壙墓 …………… 91
(2) 調査の経過 …………… 2	(3) 製炭土坑 …………… 92
第3節 調査体制 …………… 4	(4) 貯蔵穴 …………… 97
第2章 梅田萱峯遺跡の概要	(5) 落とし穴 …………… 98
第1節 遺跡の立地 …………… 5	(6) その他の土坑 …………… 102
第2節 周辺の遺跡 …………… 6	(7) 溝、耕作痕 …………… 106
第3節 遺跡の層序 …………… 10	(8) ピット …………… 107
第4節 既往の調査 …………… 12	第5節 遺構外出土遺物 …………… 110
第3章 6区の調査成果	第4章 墳丘墓の調査成果
第1節 弥生時代の遺構と遺物 …………… 19	第1節 調査の概要 …………… 115
(1) 概要 …………… 19	第2節 墳丘 …………… 116
(2) 竪穴住居跡 …………… 19	第3節 柱穴 …………… 126
(3) 段状遺構 …………… 33	第4節 埋葬施設 …………… 133
(4) 掘立柱建物跡 …………… 36	第5節 出土遺物 …………… 135
(5) 方形土坑 …………… 36	第6節 墳丘墓周辺の土坑 …………… 143
(6) その他の土坑 …………… 42	第5章 自然科学分析の成果
(7) 溝 …………… 50	第1節 梅田萱峯遺跡出土炭化材の年代測定
第2節 古墳時代の遺構と遺物 …………… 52	および樹種同定 …………… 148
(1) 概要 …………… 52	第6章 総括
(2) 竪穴住居跡 …………… 52	第1節 梅田萱峯遺跡の変遷 …………… 155
(3) 土坑 …………… 72	第2節 梅田萱峯墳丘墓の検討 …………… 170
第3節 奈良時代の遺構と遺物 …………… 78	
(1) 概要 …………… 78	
(2) 竪穴住居跡 …………… 78	
(3) 掘立柱建物跡 …………… 79	
遺物観察表	
写真図版	
報告書抄録	

挿図目次

第1図 東伯中山道路関係遺跡位置図…………… 1	第43図 SK171出土遺物(2)…………… 45
第2図 調査区位置図…………… 3	第44図 SK149…………… 45
第3図 遺跡位置図…………… 5	第45図 SK151および出土遺物…………… 46
第4図 調査地周辺地形図…………… 5	第46図 SK166…………… 47
第5図 周辺遺跡分布図…………… 7	第47図 SK166出土遺物(1)…………… 48
第6図 基本土層模式図…………… 9	第48図 SK166出土遺物(2)…………… 49
第7図 6区基本土層図…………… 9	第49図 SD5および出土遺物…………… 50
第8図 4区谷部3層(黒褐色土)出土遺物…………… 10	第50図 SD6および出土遺物…………… 51
第9図 4区谷部5層(褐灰色土)出土遺物(1)…………… 11	第51図 SII6(1)および出土遺物…………… 53
第10図 4区谷部5層(褐灰色土)出土遺物(2)…………… 12	第52図 SII6(2)…………… 54
第11図 4区谷部6層(黄褐色土)出土遺物…………… 13	第53図 SI41…………… 56
第12図 4区谷部7層(褐色土)出土遺物…………… 14	第54図 SI41出土遺物…………… 57
第13図 3・4・6区調査前地形測量図…………… 17	第55図 SI44および出土遺物…………… 59
第14図 4・6区調査後地形測量図…………… 18	第56図 SI45(1)…………… 60
第15図 SI20、SK153…………… 20	第57図 SI45(2)および出土遺物(1)…………… 61
第16図 SI20、SK153出土遺物…………… 21	第58図 SI45出土遺物(2)…………… 62
第17図 SI40…………… 22	第59図 SI46および出土遺物(1)…………… 63
第18図 SI40出土遺物…………… 23	第60図 SI46出土遺物(2)…………… 64
第19図 SI42および出土遺物…………… 24	第61図 SI47および出土遺物…………… 65
第20図 SI43および出土遺物…………… 26	第62図 SI48(1)…………… 66
第21図 SI49…………… 27	第63図 SI48(2)…………… 67
第22図 SI49出土遺物…………… 28	第64図 SI48出土遺物(1)…………… 68
第23図 SI52および出土遺物…………… 29	第65図 SI48出土遺物(2)…………… 69
第24図 SI53(1)…………… 30	第66図 SI50(1)…………… 70
第25図 SI53(2)および出土遺物(1)…………… 31	第67図 SI50(2)…………… 71
第26図 SI53出土遺物(2)…………… 32	第68図 SI50出土遺物…………… 72
第27図 SS12出土遺物…………… 33	第69図 SI51…………… 73
第28図 SS12…………… 33	第70図 SI51出土遺物…………… 74
第29図 SS13および出土遺物…………… 34	第71図 SK162および出土遺物…………… 75
第30図 SS14および出土遺物…………… 35	第72図 SK168および出土遺物…………… 75
第31図 SS15…………… 36	第73図 SK169…………… 76
第32図 SB6…………… 37	第74図 SK170および出土遺物…………… 76
第33図 SK145および出土遺物…………… 38	第75図 SK177および出土遺物…………… 77
第34図 SK146および出土遺物…………… 39	第76図 SI30・33出土遺物…………… 78
第35図 SK147…………… 40	第77図 SI30・33…………… 79
第36図 SK147出土遺物…………… 40	第78図 SB5および出土遺物…………… 81
第37図 SK152および出土遺物…………… 41	第79図 SB9および出土遺物…………… 82
第38図 SK155…………… 42	第80図 鍛冶炉3・4…………… 83
第39図 SK155出土遺物…………… 42	第81図 鍛冶炉4出土遺物…………… 83
第40図 SK171(1)…………… 43	第82図 鍛冶炉3・4周辺鍛冶関連微細遺物 分布図…………… 83
第41図 SK171(2)…………… 43	第83図 SB11、SK158・173…………… 85
第42図 SK171出土遺物(1)…………… 44	

第84図	SB11、SK173出土遺物	86	第127図	西側貼石北半部掘方	125
第85図	SB 7	88	第128図	西側貼石南端部掘方	125
第86図	SB 8	89	第129図	墳丘墓と柱穴の位置関係	126
第87図	SB10	89	第130図	柱穴列	127
第88図	SB10東側の炭化物集中範囲と鍛冶関連遺物分布図	90	第131図	P 1	128
第89図	SX17および出土遺物	90	第132図	P 2	128
第90図	SK142および出土遺物	91	第133図	P 3	129
第91図	SK143	92	第134図	P 4	129
第92図	SK144	92	第135図	P 5	130
第93図	SK148	93	第136図	P 6	130
第94図	SK150	93	第137図	P 7	131
第95図	SK154	93	第138図	P 8	132
第96図	SK157	94	第139図	P 9	132
第97図	SK160	94	第140図	第1主体部(1)	133
第98図	SK172	95	第141図	第1主体部墓壙と盛土の関係	134
第99図	SK176	95	第142図	第1主体部(2)	134
第100図	SK159	96	第143図	第2主体部	135
第101図	SK174・178・179	96	第144図	墳丘墓出土遺物分布図	136
第102図	SK180・181	97	第145図	墳丘墓出土遺物(1)	137
第103図	SK182・183	99	第146図	墳丘墓出土遺物(2)	139
第104図	SK184・185	101	第147図	墳丘墓出土遺物(3)	140
第105図	SK186・187	101	第148図	絵画土器	141
第106図	SK156および出土遺物	102	第149図	SK116	143
第107図	SK161	102	第150図	SK116出土遺物	144
第108図	SK163および出土遺物	103	第151図	SK188	145
第109図	SK164	103	第152図	SK188出土遺物	146
第110図	SK165	104	第153図	梅田萱峯遺跡出土のナイフ形石器	155
第111図	SK167	105	第154図	梅田萱峯遺跡4・6区黒曜石分布図	156
第112図	SK175および出土遺物	105	第155図	梅田萱峯遺跡変遷図(1)	160
第113図	SD 7・8、P234出土遺物	106	第156図	方形土坑分類模式図	161
第114図	P300および出土遺物(1)	107	第157図	方形土坑分布図	161
第115図	P300出土遺物(2)	108	第158図	梅田萱峯遺跡変遷図(2)	163
第116図	遺構外出土遺物(1)	109	第159図	梅田萱峯遺跡変遷図(3)	164
第117図	遺構外出土遺物(2)	110	第160図	梅田萱峯遺跡変遷図(4)	165
第118図	遺構外出土遺物(3)	111	第161図	鍛冶関連遺構配置図	165
第119図	遺構外出土遺物(4)	112	第162図	SB 3周辺鍛冶関連微細遺物分布図	166
第120図	墳丘墓周辺の遺構(弥生時代)	116	第163図	SB 3および出土遺物	167
第121図	墳丘墓盛土土層図	117	第164図	墳丘墓の立地概念図	170
第122図	盛土除去後地形測量図	118	第165図	墳丘墓柱列とSB12の比較	173
第123図	墳丘墓平・立面図	119・120	第166図	梅田萱峯墳丘墓と西谷3号墓柱穴列の比較	174
第124図	区画溝土層図	121	第167図	梅田萱峯墳丘墓第1主体部と木棺墓との比較	176
第125図	転落石検出状況	123	第168図	構築過程模式図	177
第126図	南側貼石掘方	125			

挿表目次

表1	遺構名整理表(1)……………	15	表17	土器観察表(4)……………	183
表2	遺構名整理表(2)……………	16	表18	土器観察表(5)……………	184
表3	鍛冶炉3・4微細遺物一覧表……………	84	表19	土器観察表(6)……………	185
表4	溝一覧表……………	114	表20	土器観察表(7)……………	186
表5	ピット一覧表……………	114	表21	土器観察表(8)……………	187
表6	放射性炭素年代測定結果……………	149	表22	土器観察表(9)……………	188
表7	暦年較正結果……………	150	表23	土器観察表(10)……………	189
表8	樹種同定結果……………	151	表24	土器観察表(11)……………	190
表9	黒曜石集計表(1)……………	157	表25	土器観察表(12)……………	191
表10	黒曜石集計表(2)……………	158	表26	石器観察表(1)……………	191
表11	SB3微細遺物一覧表……………	168	表27	石器観察表(2)……………	192
表12	弥生時代中期の方形貼石墓……………	172	表28	鉄製品観察表(1)……………	192
表13	柱穴を伴う墳墓……………	174	表29	鉄製品観察表(2)……………	193
表14	土器観察表(1)……………	180	表30	土製品観察表……………	193
表15	土器観察表(2)……………	181	表31	玉類観察表……………	193
表16	土器観察表(3)……………	182	表32	主柱穴一覧表……………	194

巻頭図版目次

巻頭図版1	1	調査区遠景(調査後：西から)	巻頭図版4	1	梅田萱峯墳丘墓P4掘り込み面 (北東から)
巻頭図版2	1	SI50完掘状況(北から)		2	同第1主体部墓壙断面(西から)
	2	P300黒曜石出土状況(北から)			
巻頭図版3	1	梅田萱峯墳丘墓全景(南東から)			
	2	梅田萱峯墳丘墓全景(北西から)			

文中写真目次

写真1	北側貼石西端部(北から)……………	122	写真6	P4掘り込み面……………	129
写真2	北側貼石東半部(北から)……………	122	写真7	SK188遺物出土状況……………	147
写真3	集石状をなす転落石……………	124	写真8	SK188炭化物出土状況……………	147
写真4	海岸部から持ち込まれた石……………	124	写真9	梅田萱峯遺跡6区の炭化材(1)……………	153
写真5	P2底面柱痕跡検出状況……………	128	写真10	梅田萱峯遺跡6区の炭化材(2)……………	154

図版目次

PL.1	1	遺跡全景(西から)		2	SI42完掘状況(貼床除去後：北から)
	2	遺跡全景(下が北)		3	SI42遺物出土状況(南から)
PL.2	1	SI20・SK153完掘状況(北から)		4	SI42土層断面(南東から)
	2	SI20土層断面(南西から)	PL.5	1	SI43完掘状況(貼床除去前：南東から)
	3	SK153遺物出土状況(北から)		2	SI43遺物出土状況(南東から)
PL.3	1	SI40完掘状況(北西から)		3	SI43-P1土層断面(南から)
	2	SI40-P1遺物出土状況(南から)		4	SI43-P4土層断面(東から)
	3	SI40周堤溝遺物出土状況(北東から)	PL.6	1	SI49完掘状況(貼床除去前：東から)
	4	SI40遺物出土状況(南東から)		2	SI52完掘状況(貼床除去前：北東から)
PL.4	1	SI42完掘状況(貼床除去前：北から)	PL.7	1	SI53完掘状況(北から)

	2	SI53遺物出土状況(北から)		2	SI51遺物出土状況(北西から)
	3	SI53遺物出土状況(南から)		3	SI51土層断面(西から)
PL.8	1	SS12完掘状況(北東から)		4	SI51-P4土層断面(東から)
	2	SS13完掘状況(北東から)	PL.23	1	SK162完掘状況(北東から)
	3	SS14完掘状況(南西から)		2	SK168土層断面(南西から)
	4	SS15完掘状況(南西から)		3	SK168完掘状況(南東から)
PL.9	1	SB6完掘状況(北東から)		4	SK169完掘状況(南東から)
	2	SB6-P1土層断面(南から)		5	SK170完掘状況(西から)
	3	SD5完掘状況(東から)		6	SK177完掘状況(北から)
	4	SD6完掘状況(南西から)	PL.24	1	SI30・33完掘状況(南から)
PL.10	1	SK145完掘状況(北から)		2	SI30遺物出土状況(南から)
	2	SK146完掘状況(北西から)		3	SI30遺物出土状況(北西から)
	3	SK146遺物出土状況(南西から)	PL.25	1	SI30焼土面(2層目:東から)
PL.11	1	SK147完掘状況(北西から)		2	SI30土層断面(北から)
	2	SK152完掘状況(南西から)		3	SI33土層断面(北から)
	3	SK155完掘状況(北東から)	PL.26	1	SB5完掘状況(南から)
PL.12	1	SK171遺物出土状況(北東から)		2	SB9完掘状況(北から)
	2	SK171完掘状況(北東から)		3	鍛冶炉3・4検出状況(南から)
	3	SK149完掘状況(西から)		4	鍛冶炉3カーボンベッド検出状況(南から)
	4	SK151完掘状況(北東から)	PL.27	1	鍛冶炉3カーボンベッド土層断面(南から)
PL.13	1	SK166遺物出土状況(1回目:北から)		2	鍛冶炉3完掘状況(南から)
	2	SK166遺物出土状況(2回目:北から)		3	鍛冶炉4椀形鍛冶滓・カーボンベッド(南西から)
	3	SK166遺物出土状況(3回目:北から)		4	鍛冶炉4カーボンベッド(南西から)
	4	SK166完掘状況(北から)		5	鍛冶炉4カーボンベッド土層断面(南西から)
PL.14	1	SI16周堤(北西から)		6	鍛冶炉4完掘状況(南西から)
	2	SI16完掘状況(北東から)	PL.28	1	SB11完掘状況(北から)
	3	SI16周堤土層断面(北西から)		2	SK158焼土検出状況(北から)
	4	SI16南北土層断面(東から)		3	SK173完掘状況(南西から)
PL.15	1	SI41完掘状況(貼床除去前:南東から)	PL.29	1	SB7完掘状況(南東から)
	2	SI41土層断面(南から)		2	SB7-P2土層断面(南西から)
	3	SI41-P1土層断面(南東から)		3	SB7-P4土層断面(西から)
	4	SI41遺物出土状況(北東から)	PL.30	1	SB8完掘状況(東から)
PL.16	1	SI44完掘状況(北東から)		2	SB10完掘状況(東から)
	2	SI44遺物出土状況(南西から)		3	SX17完掘状況(北東から)
	3	SI45完掘状況(貼床除去後:北東から)		4	SX17土層断面(北東から)
PL.17	1	SI45完掘状況(貼床除去前:北東から)	PL.31	1	SK142炭化物出土状況(北から)
	2	SI45遺物出土状況(南東から)		2	SK142完掘状況(北から)
PL.18	1	SI46完掘状況(貼床除去後:東から)		3	SK143炭化物出土状況(北から)
	2	SI46遺物出土状況(東から)		4	SK143完掘状況(北西から)
	3	SI46土層断面(北西から)		5	SK144炭化物出土状況(南東から)
PL.19	1	SI47完掘状況(貼床除去前:北東から)		6	SK144完掘状況(南東から)
	2	SI47-P3土層断面(南東から)	PL.32	1	SK148炭化物出土状況(北西から)
	3	SI47完掘状況(貼床除去後:北東から)		2	SK148完掘状況(北から)
PL.20	1	SI48完掘状況(貼床除去前:北東から)		3	SK150炭化物出土状況(北西から)
	2	SI48遺物出土状況(北東から)		4	SK150完掘状況(北西から)
	3	SI48遺物出土状況(東から)		5	SK154炭化物出土状況(南から)
PL.21	1	SI50完掘状況(貼床除去後:北西から)		6	SK154完掘状況(西から)
	2	SI50北西隅遺物出土状況(北から)			
	3	SI50-P19土層断面(北東から)			
	4	SI50遺物出土状況(北から)			
PL.22	1	SI51完掘状況(貼床除去前:北西から)			

PL.33	1	SK157炭化物出土状況(東から)	2	西側区画溝土器出土状況(北から)
	2	SK157完掘状況(東から)	3	西側区画溝土層断面(南から)
	3	SK160炭化物出土状況(北西から)	4	張出部土器出土状況(西から)
	4	SK160完掘状況(北西から)	PL.47	1 張出部検出状況(西から)
	5	SK172炭化物出土状況(西から)	2	張出部(西から)
	6	SK172完掘状況(北から)	PL.48	1 張出部(俯瞰)
PL.34	1	SK176炭化物出土状況(北から)	2	張出部断ち割り状況(南西から)
	2	SK176完掘状況(北西から)	PL.49	墳丘墓(上が北)
	3	SK159完掘状況(北から)	PL.50	1 北側貼石全景(北から)
	4	SK174完掘状況(南東から)	2	東側貼石南半部(東から)
	5	SK178完掘状況(南から)	3	西側貼石北半部(西から)
	6	SK179完掘状況(北西から)	PL.51	1 南側貼石全景(南から)
PL.35	1	SK180完掘状況(北から)	2	東側貼石北半部(東から)
	2	SK181完掘状況(南西から)	3	西側貼石南半部(西から)
	3	SK182完掘状況(西から)	PL.52	1 北側貼石(部分)
	4	SK183完掘状況(東から)	2	北側貼石東半部断面(西から)
	5	SK184完掘状況(北東から)	3	北側貼石西端断面(西から)
	6	SK185完掘状況(西から)	4	北側貼石中央部断面(東から)
PL.36	1	SK186完掘状況(南東から)	5	南側貼石(部分)
	2	SK187完掘状況(北から)	6	南側貼石断面(東から)
	3	SK156完掘状況(西から)	PL.53	1 西側貼石南半部(西から)
	4	SK161完掘状況(東から)	2	西側貼石南半部断面(南から)
	5	SK163完掘状況(東から)	3	西側貼石北半部断面(南西から)
	6	SK164完掘状況(南から)	4	西側貼石掘方検出状況(南から)
PL.37	1	SK165完掘状況(北東から)	5	東側貼石部分(東から)
	2	SK167完掘状況(北西から)	6	東側貼石断面(南から)
	3	SK175土層断面(南東から)	PL.54	1 北西隅貼石(北西から)
	4	SK175完掘状況(北から)	2	南西隅貼石(南西から)
	5	SD 8 完掘状況(南東から)	PL.55	1 北東隅貼石(北東から)
	6	SD 9・10完掘状況(西から)	2	南東隅貼石(南東から)
PL.38	1	H36グリッド周辺耕作痕完掘状況(南西から)	PL.56	1 西側貼石周辺土器出土状況(西から)
	2	SD11完掘状況(北から)	2	墳頂部盛土中土器出土状況(北から)
	3	谷部土層断面(西から)	3	盛土土層断面(南西から)
PL.39	1	墳丘墓周辺調査前遠景(西から)	4	盛土土層断面(南西から)
	2	墳丘墓調査前近景(南から)	PL.57	1 柱穴・第1主体部墓壙検出状況(東から)
PL.40	1	墳丘墓周辺遠景(南から)	2	柱穴列全景(東から)
	2	墳丘墓と周辺の遺構(右が北)	PL.58	1 P1土層断面(北から)
PL.41	1	墳丘墓と周辺の遺構(北東から)	2	P1完掘状況(北から)
	2	墳丘墓近景(東から)	3	P2検出状況(北西から)
PL.42	1	墳丘墓近景(北西から)	4	P2土層断面(西から)
	2	墳丘墓近景(北から)	5	P2完掘状況(北から)
PL.43	1	墳丘墓近景(西から)	6	P3検出状況(西から)
	2	墳丘墓近景(南から)	PL.59	1 P3土層断面(西から)
PL.44	1	墳丘墓検出状況(北から)	2	P3下部土層断面(西から)
	2	墳丘墓検出状況(南から)	3	P3底面柱穴跡(北東から)
	3	墳丘墓検出状況(西から)	4	P4検出状況(東から)
PL.45	1	西側区画溝検出状況(西から)	5	P4土層断面(東から)
	2	西側区画溝検出状況(北から)	6	P4完掘状況(北から)
	3	西側区画溝遺物出土状況(北から)	PL.60	1 P5上部土層断面(西から)
PL.46	1	西側区画溝土器出土状況(西から)	2	P5下部土層断面(西から)

	3	P5完掘状況(東から)	PL.75	盛土除去後全景(南から)
	4	P6検出状況(北から)	PL.76	4区谷部出土土器
	5	P6と貼石の関係(東から)	PL.77	1 SI20・SK153出土土器
	6	P6土層断面(西から)	2	SK153出土土器
PL.61	1	P6抜取穴土層断面(南西から)	3	SK153出土土器
	2	P6完掘状況(南から)	4	SK153出土土器
	3	P7土器出土状況(北から)	5	SK153出土土器
	4	P7及び抜取穴検出状況(北から)	PL.78	1 SI40出土土器
	5	P7土層断面(東から)	2	SI40出土土器
	6	P7完掘状況(北西から)	3	SI40出土土器
PL.62	1	P8検出状況(北から)	PL.79	SI42出土土器
	2	P8土層断面(東から)	PL.80	SI43・49・52出土土器
	3	P8内土器出土状況(南西から)	PL.81	1 SI49出土土器
	4	P8完掘状況(南から)	2	SI49出土土器
	5	P9抜取穴検出状況(西から)	3	SI49出土土器
	6	P9完掘状況(南から)	4	SI53出土土器
PL.63	1	柱穴列完掘状況(東から)	5	SI53出土土器
	2	柱穴列完掘状況(南から)	6	SI53出土土器
PL.64	1	第1主体部墓壙検出状況(北から)	PL.82	1 SI53出土土器
	2	第1主体部墓壙内土層断面(北西から)	2	SI53出土土器
PL.65	1	第1主体部完掘状況(北から)	3	SS14出土土器
	2	第1主体部墓壙内土器出土状況(北から)	PL.83	1 SS12・13・14出土土器
PL.66	1	第1主体部棺内西小口土層断面(南から)	2	SK146・147・152・155出土土器
	2	第1主体部棺内東半部土層断面(南から)	PL.84	1 SK145出土土器
PL.67		第1主体部棺内土層断面(東から) 上から西側、中央、東側	2	SK145出土土器
PL.68	1	第1主体部西小口検出状況(東から)	PL.85	1 SK171出土土器
	2	第1主体部西小口掘り下げ状況(東から)	2	SK171出土土器
	3	第1主体部西小口完掘状況(東から)	3	SK171出土土器
	4	第1主体部東小口検出状況(西から)	4	SK171出土土器
	5	第1主体部東小口穴検出状況(西から)	5	SK171出土土器・土製品
	6	第1主体部東小口穴土層断面(北から)	PL.86	1 SK151出土土器
PL.69	1	第1主体部棺内完掘状況(東から)	2	SK166出土土器
	2	第1主体部墓壙内完掘状況(西から)	PL.87	1 SK166出土土器
PL.70	1	第2主体部検出状況(北から)	2	SK166出土土器
	2	第2主体部土器出土状況(北から)	3	SK166出土土器
	3	第2主体部完掘状況(北から)	4	SK166出土土器
PL.71	1	第2主体部上の貼石断面(西から)	5	SK166出土土器
	2	第2主体部南北土層断面(北西から)	6	SK166出土土器
	3	第2主体部東西土層断面(北から)	PL.89	1 SD5・6出土土器
PL.72	1	SK116と墳丘墓(東から)	2	SD6出土土器
	2	SK116土器出土状況(北から)	PL.90	SI16・41出土土器
PL.73	1	SK116土器出土状況(部分)	PL.91	1 SI16出土土器
	2	SK116完掘状況(東から)	2	SI41出土土器
PL.74	1	SK116土層断面(北東から)	3	SI41出土土器
	2	SK116と墳丘墓の切り合い関係(北から)	4	SI41出土土器
			5	SI45出土土器

	6	SI45・48出土土器接合状況		2	土錘
PL.92		SI44・45・47出土土器		3	玉類
PL.93		SI46出土土器	PL.110		墳丘墓出土土器
PL.94	1	SI46出土土器	PL.111	1	墳丘墓出土土器
	2	SI46出土土器		2	墳丘墓出土土器
	3	SI48出土土器	PL.112		墳丘墓出土土器
	4	SI48出土土器	PL.113		墳丘墓出土土器
	5	SI48出土土器	PL.114	1	絵画土器
	6	SI48出土土器		2	492絵画
PL.95	1	SI48出土土器		3	491絵画
	2	SI48出土土器		4	489絵画
	3	SI48出土土器		5	493絵画
	4	SI48出土土器	PL.115	1	490絵画
	5	SI48出土土器		2	489絵画
	6	SI48出土土器		3	SK116出土土器
PL.96	1	SI48出土土器	PL.116		SK116出土土器
	2	SI48出土土器	PL.117		SK116出土土器
	3	SI48出土土器	PL.118		SK188出土土器
PL.97	1	SI50出土土器			
	2	SI50出土土器			
	3	SI50出土土器			
	4	SI51出土土器			
	5	SK168出土土器			
PL.98	1	SI51出土土器			
	2	SK162・170・177出土土器			
PL.99	1	SB5・9・11出土土器			
	2	SI30・33出土土器			
PL.100	1	SI30出土土器			
	2	SI30出土土器			
	3	SI30出土土器			
	4	SB11出土土器			
	5	SX17出土土器			
	6	SK175出土土器			
	7	遺構外出土土器			
	8	遺構外出土土器			
PL.101	1	SK142・163、SD7・8、P234出土土器			
	2	遺構外出土土器(縄文)			
PL.102		遺構外出土土器(弥生)			
PL.103	1	遺構外出土土器(古墳～奈良)			
	2	石器(サヌカイト製)			
PL.104	1	石器(敲石)			
	2	石器(台石・石錘・砥石・伐採石斧)			
PL.105	1	P300出土石器			
	2	石器(黒曜石製石鏃)			
PL.106	1	鉄製品			
	2	鉄製品X線写真			
PL.107	1	鉄製品			
	2	鉄製品X線写真			
PL.108	1	椀形鍛冶滓			
	2	椀形鍛冶滓・鍛冶滓・鉄塊系遺物・羽口			
PL.109	1	土玉			

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

本調査は、平成20年度に一般国道9号東伯中山道路の改築に伴い行った、東伯郡琴浦町大字梅田及び西伯郡大山町八重地内の工事予定地に所在する、周知の埋蔵文化財包蔵地である梅田萱峯遺跡及び梅田萱峯墳丘墓の発掘調査である。

山陰地方では、国道9号線の交通混雑緩和、荒天時の交通障害解消、災害時の緊急輸送の代替道路確保及び将来の国土幹線道路整備として、山陰自動車道の整備事業が進められている。鳥取県中部地域では、青谷羽合道路、北条道路、東伯中山道路が自動車専用道路として計画、施工され、一部供用開始されている。

このうち東伯中山道路の計画地内及び隣接地には、多数の周知の遺跡があり、建設に先立って計画地内の遺跡並びに遺跡の範囲を確認する必要性が生じた。このため、平成2年度から東伯町、赤碕町各教育委員会(いずれも当時)及び琴浦町教育委員会によって、国庫補助事業として逐次試掘・確認調査が行われた。

その結果を受け、文化財保護法に基づく手続きを踏まえ、平成11年度から平成16年度にかけて、財団法人鳥取県教育文化財団埋蔵文化財センターが調査主体となり、中尾第1遺跡など20遺跡の発掘調査を行い、各報告書を刊行した。平成17年度からは、鳥取県埋蔵文化財センターが国土交通省倉吉河川国道事務所の委託を受けて調査主体となり、梅田萱峯遺跡など6箇所の発掘調査を行い、それぞれ報告書を刊行した。

梅田萱峯遺跡は、旧赤碕町教育委員会が平成13・15年度に、旧中山町教育委員会が平成15年度にそれぞれ国庫補助事業として試掘調査を行い、遺構及び遺物を確認した遺跡である。その結果を受け、平成17年度には1区、3区を、平成18年度には1区の残り2区を、平成19年度には4区、5区の調



第1図 東伯中山道路関係遺跡位置図

査をそれぞれ行い、4冊の報告書を刊行した。

平成20年度調査は、本線及びインターチェンジ接続部分が対象となり、国土交通省倉吉河川国道事務所は、文化財保護法第94条に基づく埋蔵文化財発掘の通知を行った。それを受け、鳥取県教育委員会事務局教育長の指示により、鳥取県埋蔵文化財センターが発掘調査を担当着手した。

梅田萱峯墳丘墓は4区に所在し、平成19年度に調査を行っていたが、県内最古の弥生墳丘墓であることなどが判明したため、国土交通省と鳥取県教育委員会文化課(当時)の間で保存に関する協議が行われることとなり、調査途中で現状保存の措置をとった。最終的には現地での保存はできないこととなったため、平成20年度に調査を再開した。

なお、同墳丘墓は、赤碕勤労者体育センター(東伯郡琴浦町太一垣)敷地内に移築復元された。(湯村)

参考文献

- 小泉傑、石賀太編2002『赤碕町内遺跡発掘調査報告書Ⅷ』 赤碕町教育委員会
西尾秀道編2004『町内遺跡発掘調査報告書』 中山町教育委員会
小泉傑、石賀太編2004『赤碕町内遺跡発掘調査報告書Ⅸ』 赤碕町教育委員会
高尾浩司、浅田康行編2007『梅田萱峯遺跡Ⅰ』 鳥取県埋蔵文化財センター
湯村功、小口英一郎他編2007『梅田萱峯遺跡Ⅱ』 鳥取県埋蔵文化財センター
小口英一郎、濱本利幸編2007『梅田萱峯遺跡Ⅲ』 鳥取県埋蔵文化財センター
湯村功、小山浩和編2008『梅田萱峯遺跡Ⅳ』 鳥取県埋蔵文化財センター

第2節 調査の経過と方法

(1)調査区の名称と調査方法

梅田萱峯遺跡は、琴浦町と大山町にまたがり、大山山系から樹枝状に延びた標高約65mの丘陵上に立地する。平成20年度の調査地は、平成19年度の調査区の西側及び南側にあたり、平成17年度からの調査区の名称を踏襲して6区と命名して調査に取りかかった。

この地区の基準点及び方眼測量については、世界測地系公共座標第Ⅴ系に載るように前年度までの調査に習い、調査区内に10m方眼の基準杭を設定し、グリッドを設けた。グリッド名は、東西南北軸交点の北東側杭名の名称である。座標は、北端のK21杭(X: -54160m、Y: -66520m)、南端のI42杭(X: -54370m、Y: -66500m)などとなった。標高値は、国土交通省が設置した3級基準点H10-3-16の53.578mを使用した。

表土は、6区は重機によって除去した。遺構及び遺物包含層などの掘り下げは人力で行い、排土はベルトコンベアーを用いて、4区と5区の間谷部に集積した。

検出した遺構・遺物の記録には、光波トランシット及び自動レベルを用い、簡易遣り方測量及び光波トランシットによる座標測量を行った。現地での写真撮影は35mm判、ブローニー(6×7)判カメラ、4×5判カメラにより地上又は写真用組み立て足場上から行った。また、調査前状況及び遺跡完掘状況写真については、ラジコンヘリコプターからの空中写真撮影(ブローニー判カメラ使用)も併せて行った。遺物写真撮影は、ブローニー(6×7)判及び4×5判カメラを用いた。いずれも白黒ネガフィルム並びにカラーポジフィルムを使用するとともに、デジタルカメラも適宜使用した。

(2)調査の経過

6区の調査は、2月25日から調査前地形測量を業者委託し、3月2日に調査前航空写真撮影を行った。

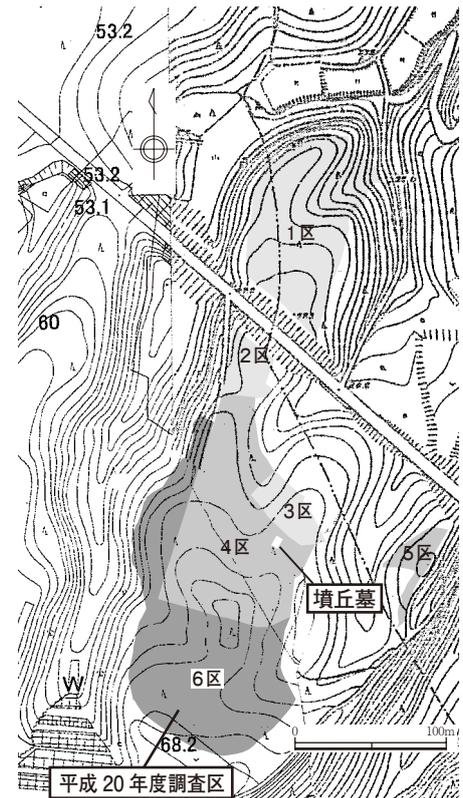
3月3日から13日にかけて重機による表土剥ぎ作業を行い、終了後方眼杭の打設を行った。発掘作業員の稼働は、4月7日から開始した。10月17日まで人力による遺構検出・掘り下げ作業を行った。10月10日からは調査後地形測量を業者委託し、10月17日には調査後空撮を実施した。その後、遺構実測を行い、10月23日に現地でのすべての作業を終了した。

調査の結果、落とし穴11、弥生時代中期から後期の竪穴住居跡7、段状遺構4、土坑10、古墳時代中期から後期の竪穴住居跡9、土坑5、奈良時代の鍛冶関連遺構1等多数の遺構を検出した。調査面積は、遺構面1面の11,650㎡となった。

墳丘墓の調査は6区の調査と同時に開始し、現状保存のために積み上げた土嚢の撤去から行った。最終的には盛土や貼石を除去し、埋葬施設の調査、周辺の地形測量等を行い、8月13日に現地での作業を終了した。墳丘墓は、県内最古の弥生時代中期後葉の築造と考えられ、墓壙を取り囲む柱穴が新たに5基検出され総数9基となったほか、埋葬から墳丘構築までの過程が明らかとなった。このような重要性に鑑み、島根大学渡邊貞幸教授には5月30日をはじめとして数度にわたる現地指導を受けたほか、7月24日には鳥根県古代文化センター松本岩雄氏に、7月25日には徳島文理大学石野博信教授にも現地指導を受けた。さらに県内各地の市町村に在籍する文化財関係者の方々にも現地でも有益な助言を受けた。

このような調査成果を知っていただくために、墳丘墓については6月28日と8月3日に、6区については9月27日に、一般の方々を対象とした現地説明会を開催した。いずれも多数の方々に参加いただいた。

現地調査終了後、直ちに報告書作成作業に移り、平成21年3月に報告書を刊行した。(湯村)



第2図 調査区位置図

調査日誌抄

2月25日	調査前地形測量開始	7月24日	鳥根県古代文化センター松本岩雄氏による墳丘墓現地指導
3月2日	調査前空撮	7月25日	徳島文理大学教授石野博信氏による墳丘墓現地指導
4月7日	発掘作業員稼働開始	8月3日	墳丘墓2回目の現地説明会。約70名の参加
4月25日	周堤溝を伴うSI40検出	8月5日	島根大学教授渡邊貞幸氏による墳丘墓現地指導
5月12日	墳丘墓第1主体の掘り下げ開始	8月6日	韓国考古学調査団一行12名来跡
5月14日	墳丘墓第1主体の北に新たな柱穴P5確認	8月13日	墳丘墓の調査終了
5月30日	島根大学教授渡邊貞幸氏による墳丘墓現地指導	8月22日	鍛冶炉検出
6月6日	島根大学教授渡邊貞幸氏による墳丘墓現地指導	9月27日	6区現地説明会。約70名の参加
6月17日	6区西側斜面部の調査終了	10月17日	現地での掘り下げ作業終了。調査後空撮
6月28日	墳丘墓現地説明会。約170名の参加	10月23日	現地での遺構実測作業終了
7月7日	墳丘墓にて新たな柱穴をさらに4基確認		
7月9日	島根大学教授渡邊貞幸氏による墳丘墓現地指導		
7月10日	田中満雄琴浦町長来跡		

第3節 調査体制

下記の体制で発掘調査、報告書作成を行った。

鳥取県埋蔵文化財センター

所 長	久保 穰二郎
次 長	田村 隆志(兼総務係長、6月30日まで)
総 務 係	
係 長	梅山 昭美(7月1日から)
副 主 幹	福島 良
主 事	浜辺 奈都美

発掘事業室

室 長	山栴 雅美(兼調整係長)
調 整 係	
文化財主事	濱 隆造

調査担当(琴浦調査事務所)

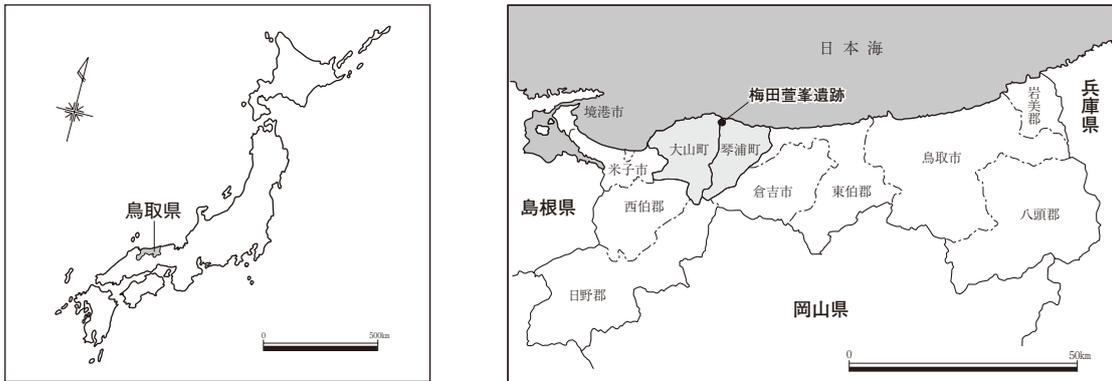
副 主 幹	牧本 哲雄、湯村 功
文化財主事	濱本 利幸、小山 浩和、野口 良也、前田 昌宏
発掘調査員	原田 克美

第2章 梅田萱峯遺跡の概要

第1節 遺跡の立地

梅田萱峯遺跡は鳥取県東伯郡琴浦町(旧赤碕町)から西伯郡大山町(旧中山町)にかけて所在する。現在の行政区画では鳥取県中部域と西部域にまたがるが、旧国制では伯耆国八橋郡にあたる。

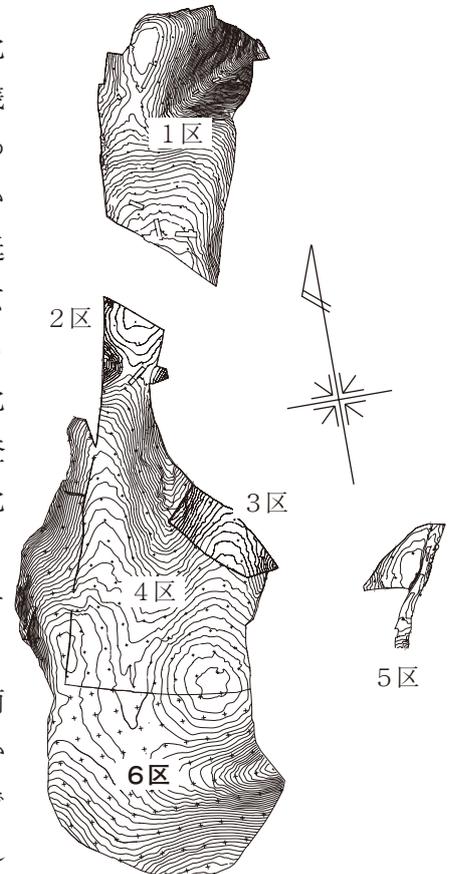
遺跡は中国地方最高峰の大山から北に向かい派生する丘陵上にあり、日本海までは直線距離で約1kmである。周辺の丘陵は大小の河川により樹枝状に開析され、河川流域には平野部が広がる。中国山地側は急峻な丘陵地となっているが、北に向かうほど緩やかとなり、梅田萱峯遺跡も標高50～60mの丘陵先端付近に立地する。



第3図 遺跡位置図

遺跡が立地する丘陵の地形を詳しく見ると、北半部は北から北東方向に延びる谷によって東西の尾根に明瞭に分かれる。谷は浅くなりながらも南へ延び、北半部のように明瞭に尾根を分けるわけではないが、南半部を東西ふたつの地形的な高まりに分けている。南半部には東方向へ延びる谷も存在し、これと北東方向に延びる谷に囲まれた東尾根は独立丘陵状となっている。西尾根は広域農道に分断されているが、分断された部分の南北は鞍部となっており、地形にアクセントをつけている。また西尾根先端部は北東に延びる谷で二股となっている。調査のために区分された調査区との対応関係を示すと、1区は西尾根先端部の広域農道以北で、2区は広域農道による分断箇所から、そのすぐ南側の鞍部までとなる。3区は東尾根先端付近。4区は東西ふたつの尾根とその間の谷を含み、独立丘陵状となる東尾根の最高位付近を南端とする。6区は南側と西側に大きく分けられる。6区南側は東西両尾根の南端部分からはじまり、そこから谷を挟んで再び南へ向かい地形が高まる場所までを指す。6区西側は西尾根の斜面部である。これらの調査区とは谷を隔てた別丘陵上に5区は設定されている(第4図)。

(湯村)



第4図 調査地周辺地形図

第2節 周辺の遺跡

旧国制の伯耆国八橋郡に該当する地域は旧大栄町(現東伯郡北栄町)から旧中山町の東半部であるが、ここでは琴浦町以西に所在する遺跡の概要を述べる。

旧石器・縄文時代 鳥取県下の旧石器資料は15遺跡で確認されており、位置づけがはっきりしない尖頭器類を含めても40遺跡を数えるに過ぎない。梅田萱峯遺跡(22)ではナイフ形石器が4点出土しており、本来の位置を遊離した出土状態とはいえ、一定量の旧石器が認められたことは注目される。三林遺跡(6)でもナイフ形石器の可能性のある資料が、笠見第3遺跡(7)では細石核の可能性のある資料が、これも本来の位置を遊離した状態で出土している。また水溜、松谷の両地点で槍先形尖頭器が採集されており、住吉第2遺跡(99)では有舌尖頭器が出土している。

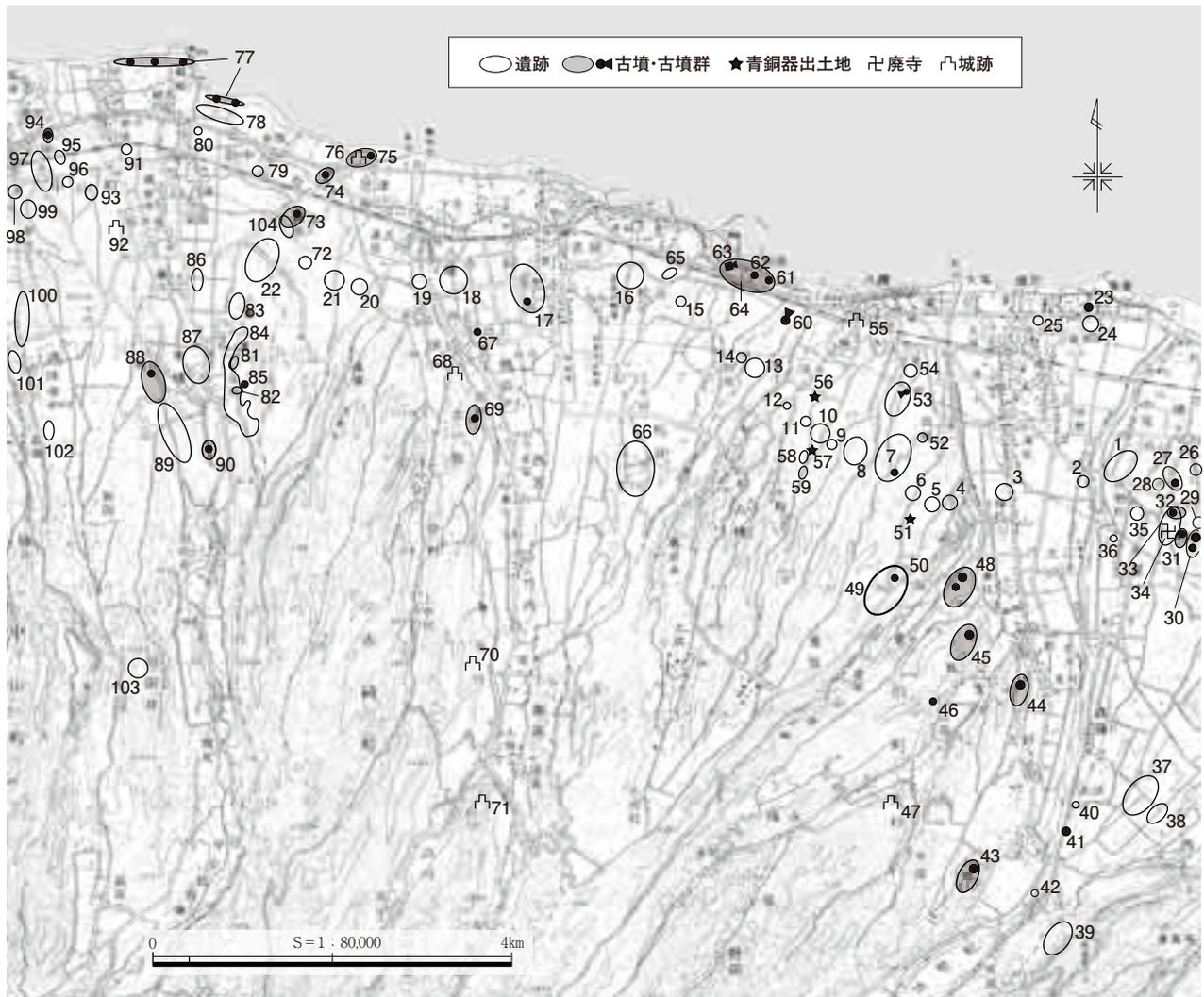
縄文時代 集落像を明らかにし得る調査例は少ない。早期のものとしては、赤坂後口山遺跡(93)、退休寺飛渡り遺跡(101)、上伊勢第1遺跡(2)で押型文土器が検出されている。中期以前では、松ヶ丘遺跡(66)、森藤第1・2遺跡(37)、井岡地中ソネ遺跡(5)、井岡地頭遺跡(4)などで土器が出土している。後期段階では森藤第2遺跡と南原千軒遺跡(19)で石囲い炉をもつ堅穴住居跡が検出されている。森藤第2遺跡では、住居内から土器のほか土器片錘、打ち欠き石錘、土偶が出土している。南原千軒遺跡では遺構外から土偶が出土しており、今朝平タイプの可能性が考えられ、同タイプの日本海側における分布の西限例となりうる。このほか後期から晩期の遺跡として、梅田萱峯遺跡、八重第1遺跡(81)、八重第3遺跡(83)、小松谷遺跡(97)、下甲抜堤遺跡(96)がある。

弥生時代 当地域の弥生開始期の様相は明らかではない。前期から中期前半については、近年の低地部の調査でこの時期の集落の一端が見え始めている。上伊勢第1遺跡では前期の堅穴住居跡が3棟確認され、中尾第1遺跡(1)と三保第1遺跡(3)では同時期の配石墓や土壙墓などの墓域が調査されている。これらの遺跡は加勢蛇川を挟んだ沖積平野の微高地上に近接して存在する。南原千軒遺跡は勝田川沿いの扇状地上に位置し、中期初頭の土器が大量に出土している。また中尾第1遺跡は中期中葉の集落でもある。

中期後半から古墳時代初頭にかけては、丘陵上を舞台として集落が大きく展開する。森藤第1遺跡、水溜り・駕籠据場遺跡、大峰遺跡(38)、井岡地中ソネ遺跡、三保遺跡(49)、笠見第3遺跡、三林遺跡、中道東山西山遺跡(8)、久蔵峰北遺跡(10)、福留遺跡(17)、笠津乳母ヶ谷第2遺跡(21)、梅田萱峯遺跡、梅田東前谷中峯遺跡(72)、八重第3遺跡、退休寺遺跡(100)、退休寺飛渡り遺跡などがあげられる。多数の住居跡が調査された例から見ると、後期半ばから後半にかけて住居等が激増する様子が窺える。

各種生産に関しては、玉作遺跡の調査例が増えている。南原千軒遺跡では中期初頭から後期までの土器を含む溝から施溝分割技法による管玉素材が多数出土している。また軟質な石材を用いて板状素材から施溝分割する「西川津技法」と同様なものがある点も注目される。笠見第3遺跡、久蔵峰北遺跡では後期の玉作工房が検出されている。笠見第3遺跡では後期前半に属する管玉素材のなかに島根県花仙山産の緑色凝灰岩が使用されていることが判明したほか、管玉の穿孔に鉄針が用いられていた例もあった。笠見第3遺跡、久蔵峰北遺跡ともに後期段階では施溝分割は行わず、打撃分割によっている。笠見第3遺跡では赤色顔料が付着した石杵、石皿が多数出土している。

墳墓では墓ノ上遺跡(65)、別所女夫岩峯遺跡(61)で中期の木棺墓が見つかった。湯坂遺跡(20)では後期の小型の墳丘墓を増築した例があり、山陰地方では珍しい鉄石英製の管玉が副葬されてい



1. 中尾第1遺跡、2. 上伊勢第1遺跡、3. 三保第1遺跡、4. 井岡地頭遺跡、5. 井岡地中ソネ遺跡、6. 三林遺跡、7. 笠見第3遺跡、8. 中道東山西山遺跡、9. 久蔵谷遺跡、10. 久蔵峰北遺跡、11. 蝮谷遺跡、12. 岩本遺跡、13. 八橋第8・9遺跡、14. 別所中峯遺跡、15. 松谷中峰遺跡、16. 化粧川遺跡、17. 福留遺跡、18. 八幡遺跡、19. 南原千軒遺跡、20. 湯坂遺跡、21. 筥津乳母ヶ谷第2遺跡、22. 梅田萱峯遺跡、23. 逢東双子塚古墳、24. 逢東遺跡、25. 逢東第2遺跡、26. 槻下豪族居館跡、27. 槻下古墳群、28. 下斎尾2号遺跡、29. 大高野遺跡、30. 大高野古墳群、31. 塚本古墳群、32. 斎尾古墳群、33. 下斎尾1号遺跡、34. 斎尾廃寺、35. 伊勢野遺跡、36. 金屋経塚、37. 森藤第1・2遺跡、38. 大峰遺跡、39. 西高尾谷奥遺跡、40. 大法古瓦出土地、41. 大法3号墳、42. 上法万経塚、43. 杉地古墳群、44. 下光好古墳群、45. 公文古墳群、46. 山田1号墳、47. 妙見山城跡、48. 竜ヶ崎古墳群、49. 三保遺跡、50. 三保6号墳、51. 田越銅剣出土地、52. 田越第4遺跡、53. 笠見第2遺跡・笠見1号墳、54. 笠見第1遺跡、55. 八橋城跡、56. 八橋銅鐸出土地、57. 久蔵峰銅矛出土地、58. 八橋第2遺跡、59. 八橋第4遺跡、60. 八橋狐塚古墳、61. 別所女夫岩峯遺跡、62. 別所2号墳、63. 別所1号墳(笠取塚古墳)、64. 別所古墳群、65. 塞ノ上遺跡、66. 松ヶ丘遺跡、67. 出上岩屋古墳、68. 條山城跡、69. 太一垣古墳群、70. 大仏山城跡、71. 山川城跡、72. 梅田東前谷中峯遺跡、73. 梅田古墳群、74. 坂ノ上古墳群、75. 筥津古墳群、76. 筥津城跡、77. 御崎古墳群、78. 御崎第1遺跡、79. 田中川上遺跡、80. 御崎第2遺跡、81. 八重第1遺跡、82. 八重第2遺跡、83. 八重第3遺跡、84. 八重第4遺跡、85. 岩屋平ル古墳、86. 樋口第1遺跡、87. 樋口第2遺跡、88. 三谷古墳群、89. 三谷遺跡、90. 束積古墳群、91. 赤坂大五輪塔、92. 岩井垣城跡、93. 赤坂後口山遺跡、94. 曲松古墳群、95. 林之峯遺跡、96. 下甲坂堤遺跡、97. 小松谷遺跡、98. 住吉第1遺跡、99. 住吉第2遺跡、100. 退休寺遺跡、101. 退休寺飛渡り遺跡、102. 退休寺第1遺跡 103. 羽田井遺跡 104. 梅田六ツ塚遺跡

第5図 周辺遺跡分布図

た。井岡地中ソネ遺跡では弥生時代終末から古墳時代初頭の区画溝を伴う土壙墓群が検出されている。梅田萱峯遺跡では、弥生時代中期後葉の貼石を施した墳丘墓が検出された。現在のところ県内では最古級の弥生墳丘墓で、9基の柱穴から構成される墓上祭祀施設が認められたほか、埋葬から墳丘築造までの過程が明らかとなっている。

琴浦町内では銅鐸、銅矛、銅剣が出土している。八橋(56)では扁平鈕I式銅鐸のほか、同一丘陵(57)で銅矛も見つかっている。田越(51)では円墳の箱式石棺下30cmの位置から中細形銅剣が4本出土している。

古墳時代 周辺には4基の前方後円・後方墳がある。別所1号墳(笠取塚古墳、53m)(63)、八橋狐塚古墳(琴浦町史跡、62m)(60)、大塚古墳(34m)、竜ヶ崎3号墳(21m)(48)である。このうち前期に属すると思われるのは、前方後方墳の別所1号墳である。

中期から後期にかけては群集墳が築かれる。大高野古墳群(30)、塚本古墳群(31)、斎尾古墳群(32)、

公文古墳群(45)、竜ヶ崎古墳群(48)、別所古墳群(64)、籠津古墳群(75)、坂ノ上古墳群(74)、梅田古墳群(73)、御崎古墳群(77)、東積古墳群(90)などである。大高野3号墳では金銅製耳環、青銅製鈴、鉄刀などが副葬されていた。中期後半の高塚古墳は現在は消滅しているが、朝顔形埴輪、形象埴輪などが出土している。横穴式石室が採用される直前の時期の古墳には、この地域独特の河原石を用いた箱式石棺を主体部にもつ御崎古墳群、別所古墳群、梅田古墳群がある。後期以降採用される横穴式石室には、大法3号墳(41)、三保6号墳などのように堅穴系横口式石室と呼ばれる構造をもつものがある。槻下古墳群(27)、大高野古墳群、塚本古墳群、斎尾古墳群など後続する石室形態もその系譜に連なるものであることから、加勢蛇川流域に石室形態を同じくする集団が存在したことを示している。終末期に属すると考えられる切石積石室は、山田1号墳(琴浦町史跡)(46)、出上岩屋古墳(県史跡)(67)、岩屋平ル古墳(県史跡)(85)などに認められる。

集落の様相は不明な部分が多い。三保遺跡、上伊勢第1遺跡、笠見第3遺跡、蝮谷遺跡(11)、三林遺跡、久蔵峰北遺跡、中尾第1遺跡、三保第1遺跡、松谷中峰遺跡(15)、井岡地中ソネ遺跡、別所中峯遺跡(14)、八重第3遺跡、住吉第2遺跡など集落遺跡の調査例は多いが、実態は必ずしも明らかではない。笠見第3遺跡では今のところ県内最古例となる中期末の鍛冶炉が検出され、鉄床石や羽口など鍛冶関連遺物も出土している。八橋第8・9遺跡(13)では6世紀から7世紀代の堅穴住居跡23棟などが調査されたほか、椀形鍛冶滓なども出土しており、報告では出土した土器に基づき、集落動態の解明に取り組んでいる。籠津乳母ヶ谷第2遺跡では丘陵斜面を造成した段状遺構が、古墳時代後期から奈良時代にかけて多数築かれている。そのうち1棟は鍛冶炉を伴っていた。梅田萱峯遺跡では前期から後期にかけての堅穴住居跡が13棟見つかり、同一丘陵上で集落が少しずつ移動した様子が確認されている。

古代 梅田萱峯遺跡の東方10kmには山陰地方唯一の国特別史跡である斎尾廃寺(34)がある。金堂や塔、講堂跡が残り、これらを取り囲む土塁状の高まりも存在する。伽藍配置は法隆寺式である。斎尾廃寺が位置する加勢蛇川右岸は伯耆国八橋郡の中心地であったと推定され、近くには出土した炭化米を根拠に正倉または郷倉と考えられる総柱礎石建物群がある大高野遺跡(29)や伊勢野遺跡(35)、水溜り・駕籠据場遺跡といった掘立柱建物群や墨書土器を伴う遺跡がある。やや南には墨書土器や金属器写しの須恵器が出土した森藤第1・第2遺跡、大法古瓦出土地(40)がある。このほか、旧籠津郷に位置する八幡遺跡(18)では掘立柱建物群や赤色塗彩土師器が多数出土している。田中川上遺跡(79)では埋没河川が確認され、その川辺の一部から須恵器や赤色塗彩の土師器が集中して投棄された状態が検出されており、川辺での祭祀行為が想定されている。

墳墓の関係では、笠見第3遺跡と三林遺跡で火葬墓が見つかり、笠見第3遺跡では土坑を掘り蔵骨器と考えられる土師器坏と火葬骨を木櫃に納めていた。三林遺跡では土坑を掘った中に石槨を設け、その中に土師器を組み合わせた蔵骨器に火葬骨を納めていた。金屋(36)と上法万(42)では経塚が見つかり、金屋では銅経筒が納められていた。

生産関係では、上伊勢第1遺跡で9世紀から13世紀と考えられる畠跡が見つかり、梅田萱峯遺跡では8世紀代の、中道東山西山遺跡では9世紀代にそれぞれ位置づけられる鍛冶炉などの鉄関連遺構や遺物が検出されている。

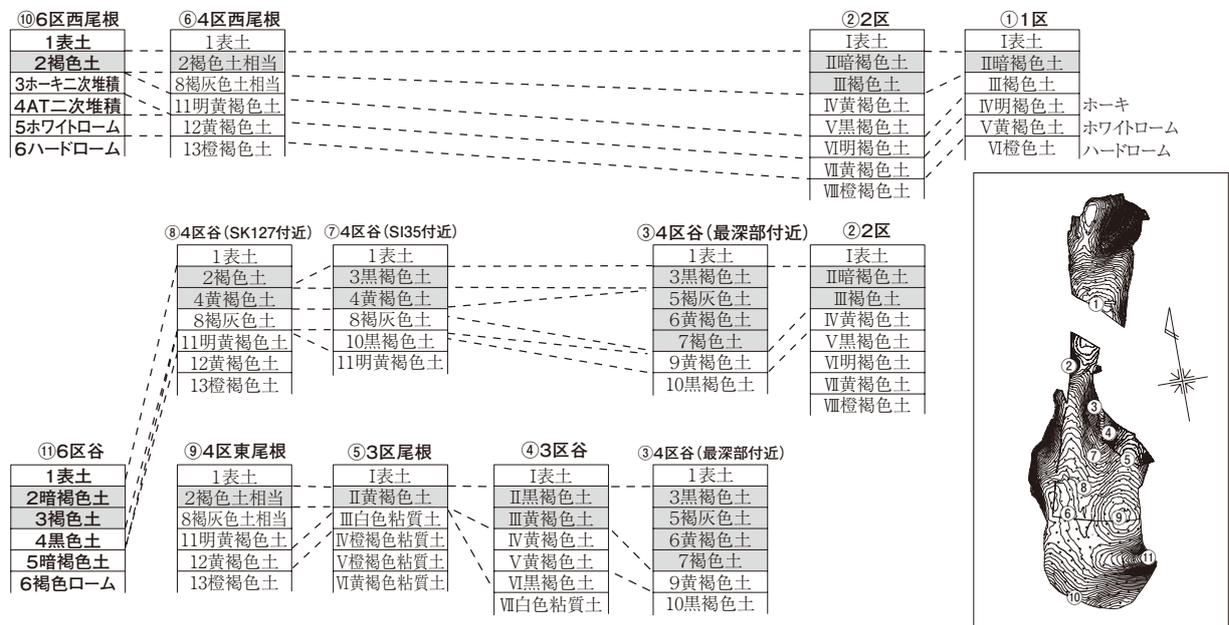
中世 南原千軒遺跡では平安後期の鍛冶関連遺構や遺物が大量に出土した。鍛冶炉や廃棄土坑のほか鉄滓や鍛造剥片などの微細遺物も豊富で、鉄素材から製品まで生産していたと考えられる。

井岡地頭遺跡では平安時代末頃の方形区画溝が検出されている。内部には道路状の硬化面や礎石とおぼしき礫があり、居館跡の可能性がある。槻下館跡(琴浦町史跡)(26)は40m四方の主郭のほか、周囲に土塁や壕を巡らせた郭をもつ複郭式と考えられる。鎌倉時代に岩野弾正の居城であったと伝えられるが詳細は不明である。

南の山地に目を向けると標高615mの船上山がそびえる。ここには南北朝期に後醍醐天皇が隠岐から逃れた行宮跡(国史跡)がある。赤碓港から船上山にかけては、鎌倉末期と推定される、宝塔と宝篋印塔の二様式を合わせもつ独特の形態の赤碓塔(県保護文化財)があることでも知られている。

中世城館は各地に見られる。南北朝期に西伯耆で勢力をもっていた行松氏が築城し、後に毛利氏が支配し伯耆の経営拠点となった八橋城跡(琴浦町史跡)(55)、天正年間の築城と考えられる妙見山城跡(47)、土塁と堀が残る琴浦町史跡の篋津城(楨城)跡(76)、南北500m、東西300mの規模を有し土塁などが残る岩井垣城跡(92)のほか、條山城跡(68)、大仏山城跡(70)、山川城跡(71)がある。

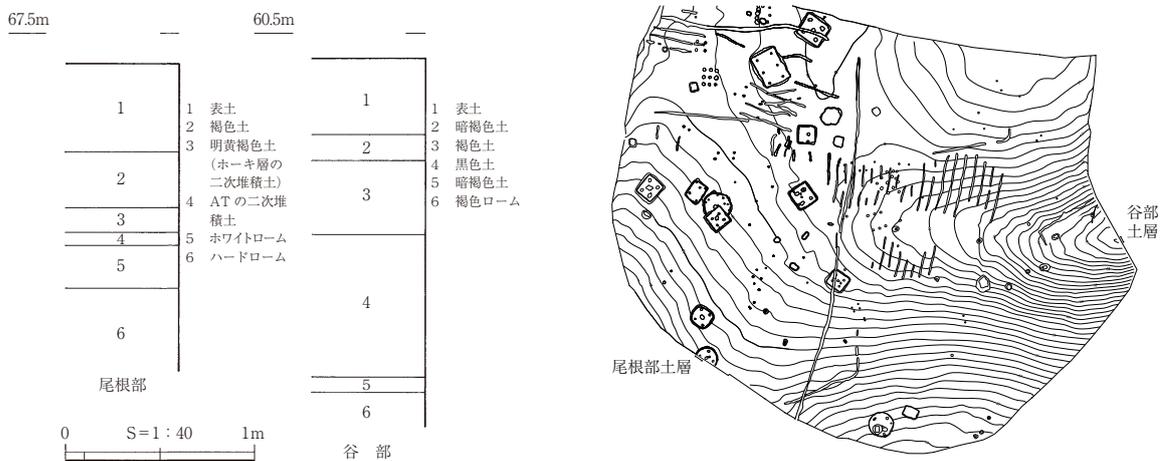
(牧本・湯村)



- 1 柱状図の配置は、調査地の位置関係をおおまかに示している。詳細は右図参照。なお、深さや高さは反映していない。
- 2 層名はそれぞれの調査報告に従った。

基本土層箇所位置図

第6図 基本土層模式図



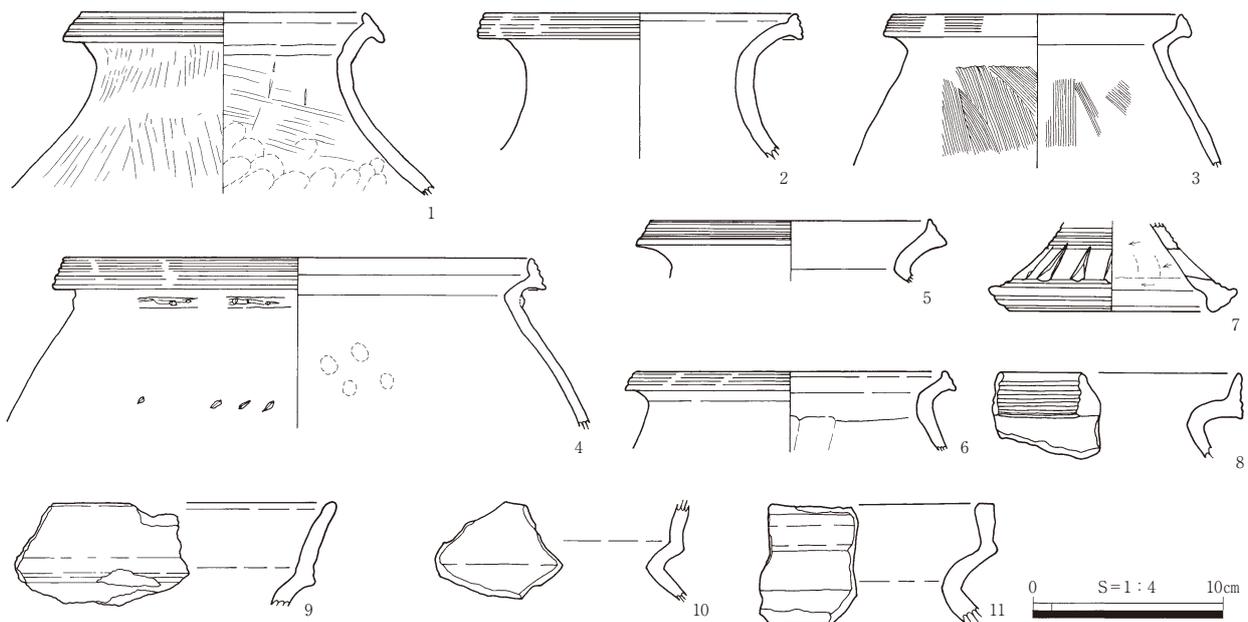
第7図 6区基本土層図

第3節 遺跡の層序

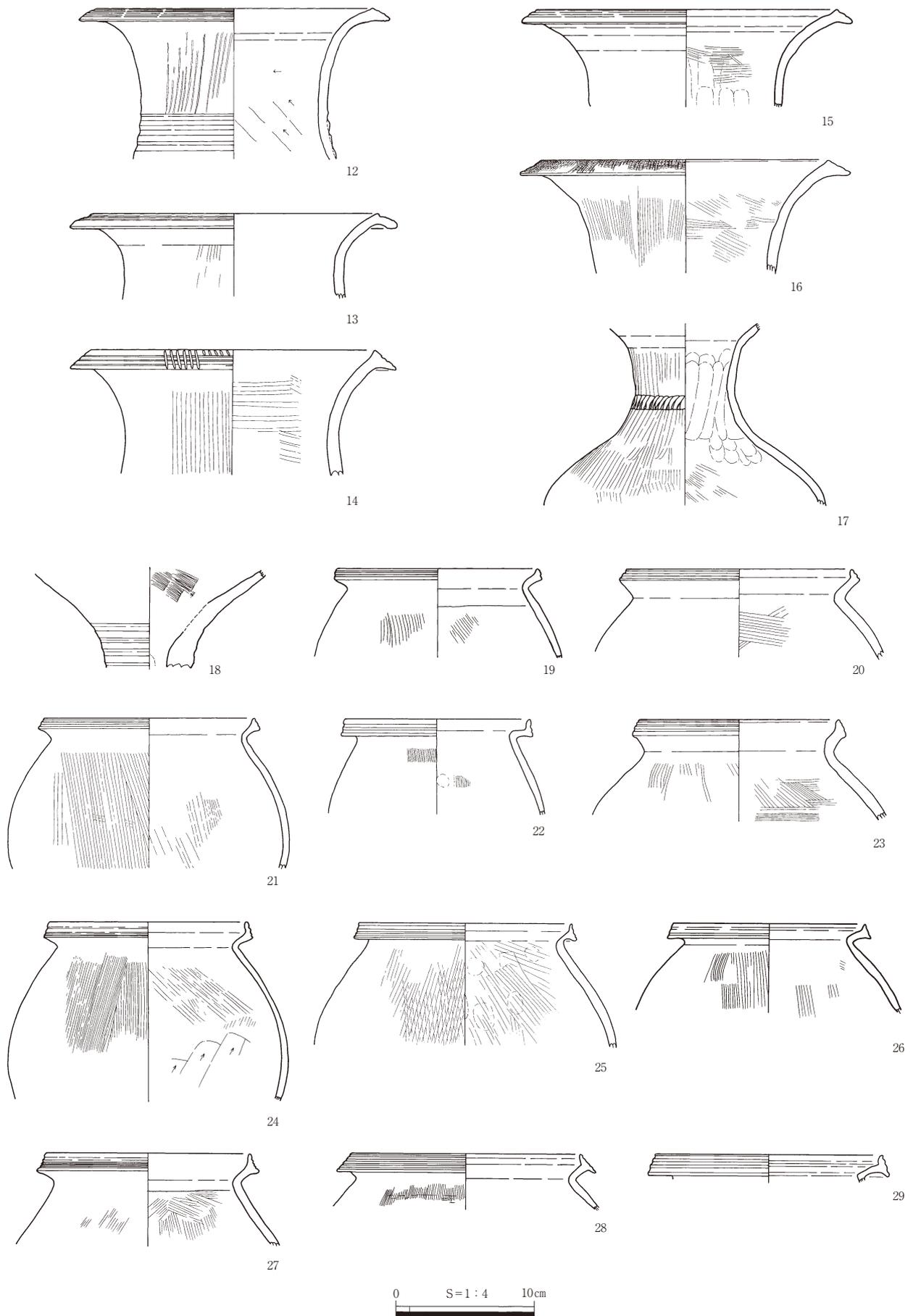
梅田萱峯遺跡周辺の丘陵は、大山を噴出源とする火山堆積物により形成された台地である。したがって遺跡全体の基本層序は、こうした火山噴出物が土壌化または二次堆積した土層を基盤とし、その上位に人間活動により形成された遺物包含層がある。これをもう少し詳しく述べると、尾根部は上から表土、遺物包含層と続き、その下にソフトローム起源と思われる無遺物層がある。この無遺物層の上面を遺構面と認識している。以下、ホーキ層の二次堆積土、ホワイトローム、ハードロームと続く。

今回調査を行った6区も基本的にはこれと同様であるが、一部ATが二次堆積したと思われる土層がホーキの二次堆積土下に認められた。谷は、堆積が複雑ではなく、遺物包含層も細分できなかった(第7図)。

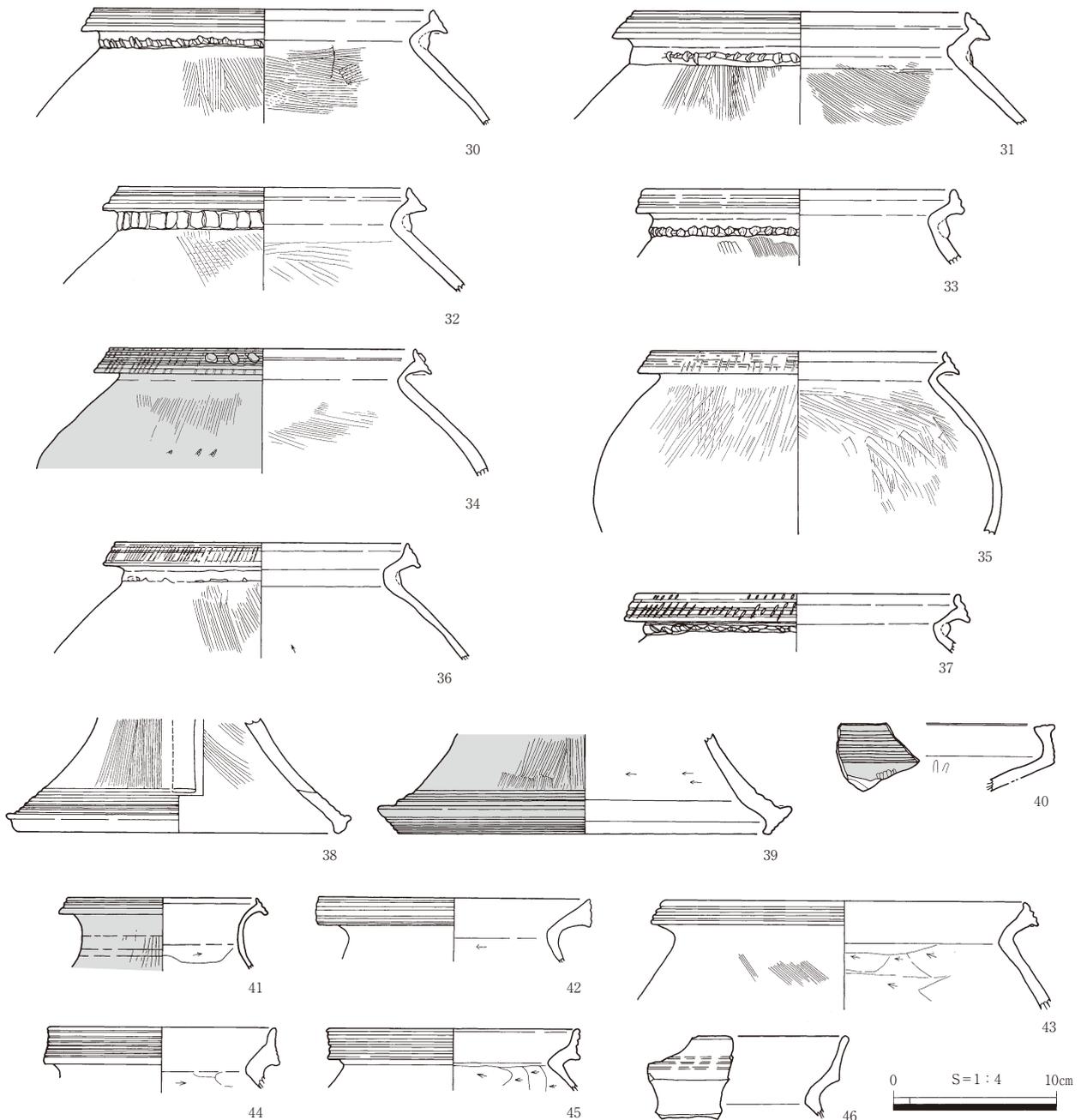
4区から6区にかけては、弥生時代中期から奈良時代までの遺構が検出されている。これらの遺構の掘り込み面は本来異なっていたと想定されるが、尾根部ではその違いは確認できていない。昨年度調査を行った4区の谷部では遺構の時期により掘り込み面が異なることが一部確認されている。それによれば古墳時代中期前葉から中葉の遺構は4区基本土層の4層(黄褐色土)上面から掘り込まれており、弥生時代中期後葉の遺構は6層(黄褐色土遺物包含層)または8層(褐灰色土無遺物層)上面から掘り込まれ、4層に覆われている。4区谷の最深部付近では遺物包含層も複数枚認識できており、それぞれに細かな時期差がないかどうか、含まれる遺物の様相を検討してみた。その結果、上から3層(黒褐色土)には弥生時代中期後葉から古墳時代後期までの遺物が、5層(褐灰色土)には弥生時代中期後葉から後期後葉までの遺物がそれぞれ含まれていた。6層、7層(褐色土)には弥生時代中期後葉の遺物のみが認められる(第8～12図)。6層・7層間では層をまたいで遺物の接合関係が確認されたが、上下の土層間での混在は当然考えられるところであるし、それぞれの土層は識別しえた以上にさらに細かく分けられる可能性もある。各土層に含まれる弥生時代中期後葉の土器はIV-2～3の特徴を示し、時期差は指摘できない。4区の谷部は尾根部に集落が展開する弥生時代中期後葉(IV-2～3)を中心に堆積が進み、それ以降も徐々に埋没していったものと思われる。大量に出土した遺物から、その堆積過程には集落の造営や生産活動など、人為的な要因が深く関わっていたのであろう。(湯村)



第8図 4区谷部3層(黒褐色土)出土遺物



第9図 4区谷部5層(褐灰色土)出土遺物(1)



第10図 4区谷部5層(褐灰色土)出土遺物(2)

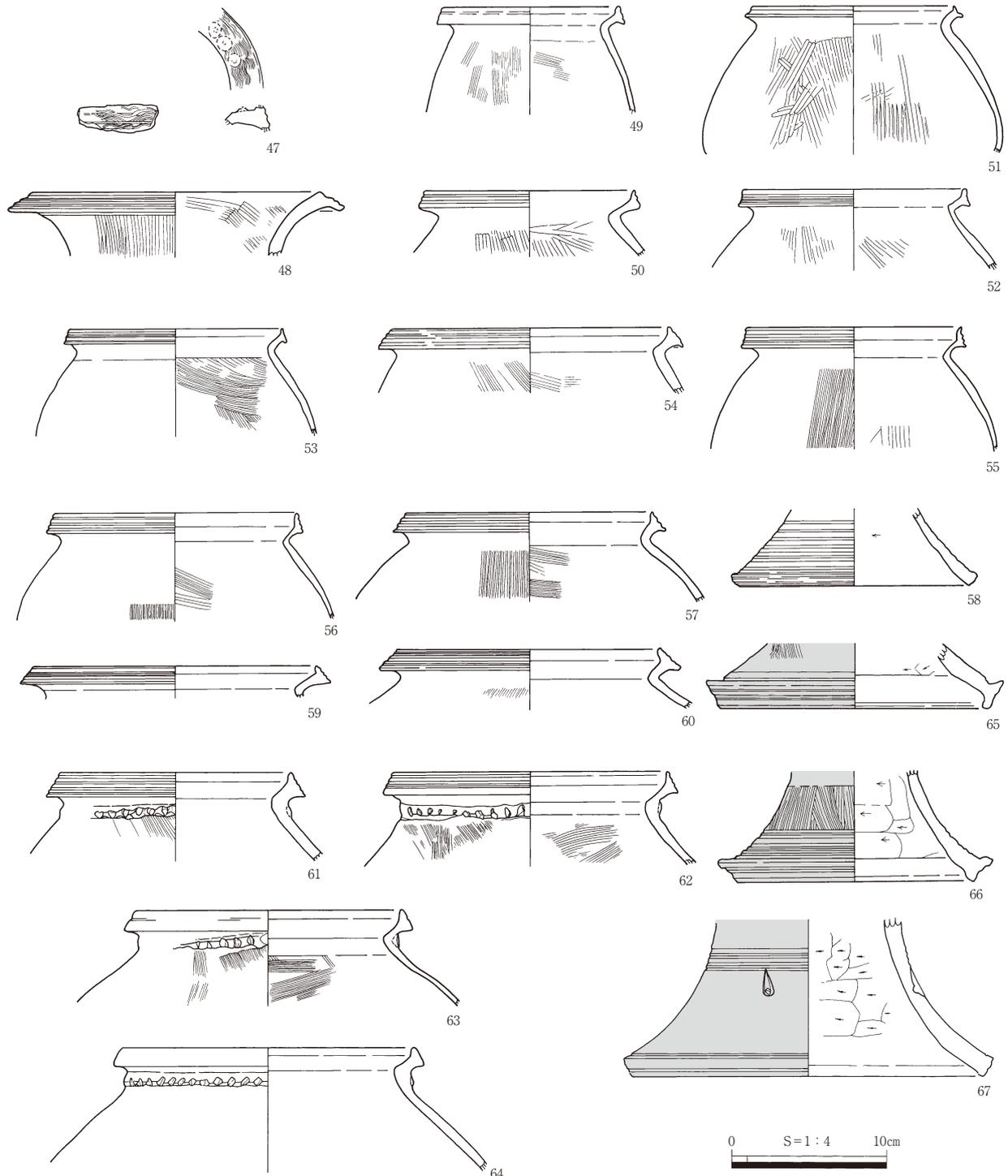
第4節 既往の調査

梅田萱峯遺跡は、平成17年度から平成20年度までの4年間継続して発掘調査を行った。調査対象地が遺跡の所在する丘陵先端部のほぼ全域にわたったため、弥生時代から奈良時代までの集落像など明らかになった部分が多い。ここでは既往の調査の概要について述べる。なお遺構名は基本的に調査年次順に通し番号を付しているが、3区は1区と同時進行で調査を行っていた関係で、3区は別となっている。梅田萱峯遺跡の調査を終えるにあたり、ここも含めて遺構名を整理したい。その詳細は表1・2に譲る。

平成17年度調査

谷を除く1区と3区が調査対象地である。

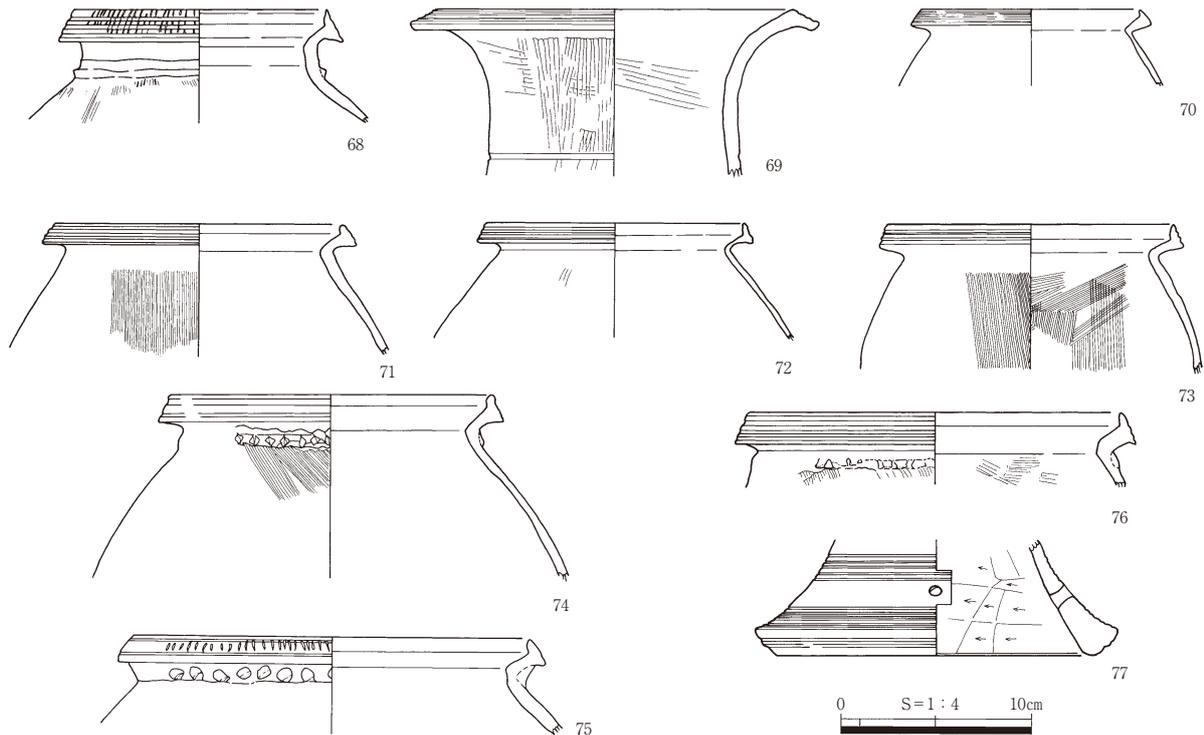
1区は平成17年5月9日から11月30日まで現地調査を行った。調査面積は5,250㎡である。弥生時代中期後葉の竪穴住居跡10棟、段状遺構2基、方形土坑2基、貯蔵穴8基、土坑26基、土壙墓・木棺墓



第11図 4区谷部6層(黄褐色土)出土遺物

15基、時期不明の土坑18基(うち落とし穴2基)が検出された。弥生時代中期後葉の遺構はほとんどがIV-1に属し、IV-2~3の遺構分布域とは立地が異なることを示している。また居住域南側のやや高位なところに土壙墓・木棺墓群からなる墓域を設けていたことも明らかにされた。

3区は1,100㎡について、平成17年5月9日から7月22日まで現地調査を行った。弥生時代中期後葉の竪穴住居跡3棟、段状遺構1基、方形土坑2基、土坑3基、弥生時代中期後葉と思われる掘立柱建物跡4棟、時期不明の土坑18基(うち貯蔵穴2基、落とし穴8基)を検出した。弥生時代中期後葉の遺構はIV-2~3に属するものである。独立棟持柱を有する掘立柱建物跡や、住居から出土した分銅



第12図 4区谷部7層(褐色土)出土遺物

形土製品及び包含層出土の絵画土器の存在が注意された。1区と3区の調査は同時に行われていたが、この時点で梅田萱峯遺跡の弥生時代中期集落の移動や集落構造の変化、あらたな祭祀形態の導入などに関心が払われていた点は注目してよいであろう。

平成18年度調査

1区のうち西尾根先端部を二股に分ける谷部と丘陵平坦部の一部及び2区の調査を行った。

1区は平成18年4月25日から7月7日まで現地調査を行った。調査面積は延べで4,450㎡に及んだ。谷部は勾配が20～30度と大きい上に遺物包含層が厚く堆積しており、調査には困難が伴った。弥生時代中期後葉(Ⅳ-1)の竪穴住居跡1棟、段状遺構1基、貯蔵穴2基、時期不明の土坑1基(落とし穴)が確認されている。このほか谷部では古墳時代後期と思われる土師器甕と8世紀代の須恵器壺を埋設したピットが1基ずつ検出された。包含層から出土した土器には8世紀代の須恵器も一定量認められ、この時点では古墳時代以降の集落の存在を示す遺構は未発見であったが、翌年発見されることになる当該期集落の存在を予感させるものであった。

2区は平成18年9月28日から12月12日まで、1,000㎡を対象として現地調査を行った。弥生時代中期後葉(Ⅳ-1)の竪穴住居跡3棟、掘立柱建物跡2棟、段状遺構1基、土器棺墓1基、貯蔵穴2基、土坑10基が検出されている。土器棺墓は1区で発見されていた土壙墓・木棺墓群と一連のもので、墓域の南端を明らかにするとともに、埋葬形態が多様であったことを示した。

平成19年度調査

4区8,350㎡、5区1,200㎡の計9,550㎡について、調査を行った。

4区は平成19年4月20日から10月19日まで現地調査を行った。弥生時代中期後葉の竪穴住居跡10棟、段状遺構5基、墳丘墓1基、方形土坑14基、貯蔵穴1基、土坑12基、弥生時代後期前葉の竪穴住

表1 遺構名整理表(1)

竪穴住居

遺構名	区	時期	備考	遺構名	区	時期	備考	遺構名	区	時期	備考
SI1	1	弥生(IV1)		SI20	4、6	弥生(V2)		SI39	4	古墳(天V)	
SI2	1	弥生(IV1)		SI21	4	弥生(V1)		SI40	6	弥生(IV2~3)	
SI3	1	弥生(IV1)		SI22	4	弥生(IV2~3)		SI41	6	古墳(天X)	
SI4	1	弥生(IV1)		SI23	4	弥生(IV2~3)		SI42	6	弥生(IV2~3)	
SI5	1	弥生(IV1)		SI24	4	古墳(天III)		SI43	6	弥生(V1)	
SI6	1	弥生(IV1)		SI25	4	弥生(IV2~3)		SI44	6	古墳(天X)	
SI7	1	弥生(IV1)		SI26	3、4	弥生(IV2~3)	3区SI2	SI45	6	古墳(天IX)	
SI8	1	弥生(IV1)		SI27	4	弥生(IV2~3)		SI46	6	古墳(天IX)	
SI9	1	弥生(IV1)		SI28	4	弥生(IV2~3)		SI47	6	古墳(天IX)	
SI10	1	弥生(IV1)		SI29	4	弥生?		SI48	6	古墳(天IX)	
SI11	1	弥生(IV1)		SI30	4	奈良		SI49	6	弥生(V2)	
SI12	2	弥生(IV1)		SI31	4	弥生(IV2~3)		SI50	6	古墳(天X)	
SI13	2	弥生(IV1)		SI32	4	奈良		SI51	6	古墳(天X)	
SI14	2、4	弥生(IV1)		SI33	4	奈良		SI52	6	弥生(IV2~3)	
SI15	4	弥生(V1)		SI34	4	古墳(天V以前)		SI53	6	弥生(IV2~3)	
SI16	4、6	古墳(天VI以前)		SI35	4	弥生(IV2~3)		SI54	3	弥生(IV2~3)	3区SI1
SI17	4	弥生(V1)		SI36	4	弥生(IV2~3)		SI55	3	弥生(IV2~3)	3区SI4
SI18	4	弥生(V1)		SI37	4	弥生(IV2~3)					
SI19	4	古墳(天V~VI)		SI38	4	弥生(IV2~3)					

段状遺構

遺構名	区	時期	備考	遺構名	区	時期	備考	遺構名	区	時期	備考
SS1	1	弥生(IV1)		SS6	4	弥生(IV2~3)		SS11	4	弥生(IV2~3)	
SS2	1	弥生(IV1)		SS7	4	弥生(IV2~3)		SS12	6	弥生(IV2~3)	
SS3	1	弥生(IV1)		SS8	3、4	弥生(IV2~3)	3区SS1	SS13	6	弥生(IV2~3)	
SS4	2	弥生(IV1)		SS9	4	弥生(IV2~3)		SS14	6	弥生(VI)	
SS5	5	弥生(IV2~3)		SS10	4	弥生(IV2~3)		SS15	6	弥生?	

掘立柱建物

遺構名	区	時期	備考	遺構名	区	時期	備考	遺構名	区	時期	備考
SB1	2	弥生(IV1)		SB6	6	弥生?		SB11	6	奈良	鍛冶
SB2	2	弥生(IV1)		SB7	6	不明		SB12	3	弥生(IV2~3)?	3区SB1
SB3	4	奈良	鍛冶	SB8	6	不明		SB13	3	弥生(IV2~3)?	3区SB2
SB4	4	奈良	鍛冶	SB9	6	奈良		SB14	3	弥生(IV2~3)?	3区SB3
SB5	6	奈良		SB10	6	不明		SB15	3	弥生(IV2~3)?	3区SB4

土壇墓・木棺墓・土器棺墓

遺構名	区	時期	備考	遺構名	区	時期	備考	遺構名	区	時期	備考
SX1	1	弥生(IV1~2)	木棺墓	SX7	1	弥生(IV1~2)	木棺墓	SX13	1	弥生(IV1~2)	木棺墓?
SX2	1	弥生(IV1~2)	木棺墓	SX8	1	弥生(IV1~2)	木棺墓?	SX14	1	弥生(IV1~2)	土壇墓
SX3	1	弥生(IV1~2)	木棺墓	SX9	1	弥生(IV1~2)	木棺墓?	SX15	1	弥生(IV1~2)	木棺墓?
SX4	1	弥生(IV1~2)	木棺墓?	SX10	1	弥生(IV1~2)	土壇墓	SX16	2	弥生(IV1~2)	土器棺墓
SX5	1	弥生(IV1~2)	土壇墓	SX11	1	弥生(IV1~2)	木棺墓?	SX17	6	不明	土壇墓
SX6	1	弥生(IV1~2)	木棺墓?	SX12	1	弥生(IV1~2)	木棺墓				

土坑

遺構名	区	時期	備考	遺構名	区	時期	備考	遺構名	区	時期	備考
SK1	1	不明		SK43	1	弥生(IV1)		SK85	4	不明	
SK2	1	不明		SK44	1	弥生(IV1)		SK86	4	不明	落
SK3	1	弥生(IV1)		SK45	1	弥生(IV1)	貯	SK87	4	不明	
SK4	1	弥生(IV1)		SK46	1	弥生(IV1)		SK88	4	不明	落
SK5	1	弥生(IV1)	貯	SK47	1	不明		SK89	4	不明	
SK6	1	弥生(IV1)	方	SK48	1	不明		SK90	4	不明	落
SK7	1	不明		SK49	1	不明		SK91	4	弥生(IV2~3)	方
SK8	1	弥生(IV1)		SK50	1	弥生(IV1)		SK92	4	弥生(IV2~3)	方
SK9	1	弥生(IV1)		SK51	1	弥生(IV1)		SK93	4	弥生(IV2~3)	方
SK10	1	弥生(IV1)		SK52	1	不明	落	SK94	4	弥生(IV2~3)	
SK11	1	不明		SK53	1	弥生(IV1)	貯	SK95	4	弥生(IV2~3)	
SK12	1	不明		SK54	1	弥生(IV1)		SK96	4	不明	落
SK13	1	弥生(IV1)	貯	SK55	1	不明	落	SK97	4	不明	落
SK14	1	弥生(IV1)		SK56	1	弥生(IV1)	貯	SK98	4	不明	
SK15	1	弥生(IV1)		SK57	1	弥生(IV1)		SK99	4	弥生(IV2~3)	方
SK16	1	弥生(IV1)	貯	SK58	1	不明	製炭	SK100	4	弥生(IV2~3)	方
SK17	1	弥生(IV1)	貯	SK59	1	弥生(IV1)		SK101	4	弥生(IV2~3)	
SK18	1	弥生(IV1)		SK60	1	弥生(IV1)	貯	SK102	4	弥生(IV2~3)	
SK19	1	弥生(IV1)		SK61	2	古墳?	製炭	SK103	4	不明	落
SK20	1	不明	落	SK62	2	弥生(IV1)		SK104	4	弥生(IV2~3)	
SK21	1	不明		SK63	2	弥生(IV1)		SK105	4	弥生(IV2~3)	方
SK22	1	弥生(IV1)		SK64	2	弥生(IV1)		SK106	4	弥生(IV2~3)	
SK23	1	弥生(IV1)		SK65	2	弥生(IV1)		SK107	4	奈良	鍛冶
SK24	1	弥生(IV1)		SK66	2	弥生(IV1)		SK108	4	不明	落
SK25	1	不明		SK67	2	弥生(IV1)	貯	SK109	4	不明	落
SK26	1	不明		SK68	2	弥生(IV1)		SK110	4	不明	落
SK27	1	不明		SK69	2	弥生(IV1)		SK111	4	不明	落
SK28	1	弥生(IV1)		SK70	2	弥生(IV1)		SK112	4	不明	落
SK29	1	不明		SK71	2	弥生(IV1)		SK113	4	不明	落
SK30	1	弥生(IV1)		SK72	2	弥生(IV1)	貯	SK114	4	不明	
SK31	1	弥生(IV1)		SK73	2	弥生(IV1)		SK115	4	弥生(IV2~3)	貯
SK32	1	弥生(IV1)		SK74	5	弥生(IV2~3)		SK116	4	弥生(IV2~3)	方
SK33	1	弥生(IV1)	貯	SK75	4	奈良	鍛冶	SK117	4	不明	
SK34	1	弥生(IV1)		SK76	4	弥生(IV1)		SK118	4	弥生(IV2~3)	
SK35	1	弥生(IV1)	方	SK77	4	弥生(IV1)		SK119	4	弥生(IV2~3)	
SK36	1	弥生(IV1)	貯	SK78	4	不明	貯	SK120	4	不明	落
SK37	1	弥生(IV1)		SK79	4	不明	落	SK121	4	弥生(IV2~3)	方
SK38	1	不明		SK80	4	弥生(IV2~3)	方	SK122	4	弥生(IV2~3)	方
SK39	1	不明		SK81	4	不明		SK123	4	弥生(IV2~3)	方
SK40	1	不明		SK82	4	弥生(IV2~3)	方	SK124	4	不明	貯
SK41	1	弥生(IV1)		SK83	4	不明		SK125	4	不明	貯
SK42	1	弥生(IV1)		SK84	4	不明		SK126	4	弥生(IV2~3)	

表2 遺構名整理表(2)

遺構名	区	時期	備考	遺構名	区	時期	備考	遺構名	区	時期	備考
SK127	4	弥生(IV 2~3)	方	SK156	6	不明		SK185	6	不明	落
SK128	4	不明	落	SK157	6	不明	製炭	SK186	6	不明	落
SK129	4	不明		SK158	6	奈良	鍛冶	SK187	6	不明	落
SK130	4	不明		SK159	6	不明	貯	SK188	4	弥生(IV 2~3)	方
SK131	4	不明	落	SK160	6	不明	製炭	SK189	3	不明	3区SK1
SK132	4	不明	落	SK161	6	不明		SK190	3	弥生(IV 2~3)	3区SK3
SK133	4	不明	落	SK162	6	古墳		SK191	3	弥生(IV 2~3)	3区SK4
SK134	4	不明	落	SK163	6	不明		SK192	3	不明	3区SK7
SK135	4	不明	落	SK164	6	不明		SK193	3	不明	3区SK8落
SK136	4	不明	落	SK165	6	不明		SK194	3	不明	3区SK10
SK137	4	弥生(IV 2~3)		SK166	6	弥生(IV 2~3)		SK195	3	不明	3区SK11貯
SK138	4	不明		SK167	6	不明		SK196	3	不明	3区SK12落
SK139	4	不明	落	SK168	6	古墳		SK197	3	不明	3区SK13貯
SK140	4	不明	落	SK169	6	古墳		SK198	3	不明	3区SK14
SK141	4	奈良	鍛冶	SK170	6	古墳		SK199	3	不明	3区SK15落
SK142	6	不明	製炭	SK171	6	弥生(IV 2~3)	方	SK200	3	不明	3区SK18落
SK143	6	不明	製炭	SK172	6	不明	製炭	SK201	3	不明	3区SK19
SK144	6	不明	製炭	SK173	6	奈良	鍛冶	SK202	3	不明	3区SK20落
SK145	6	弥生(IV 2~3)	方	SK174	6	不明	落	SK203	3	不明	3区SK21
SK146	6	弥生(IV 2~3)	方	SK175	6	不明		SK204	3	弥生(IV 2~3)	3区SK22
SK147	6	弥生(IV 2~3)	方	SK176	6	不明	製炭	SK205	3	不明	3区SK23
SK148	6	不明	製炭	SK177	6	古墳		SK206	3	不明	3区SK24落
SK149	6	弥生(IV 2~3)		SK178	6	不明	落	SK207	3	不明	3区SK25
SK150	6	不明	製炭	SK179	6	不明	落	SK208	3	不明	3区SK26落
SK151	6	弥生(IV 2~3)		SK180	6	不明	落	SK209	3	不明	3区SK27落
SK152	6	弥生(IV 2~3)	方	SK181	6	不明	落	SK210	3	弥生(IV 2~3)	3区SI3方
SK153	6	弥生(IV 2~3)	方	SK182	6	不明	落	SK211	3	弥生(IV 2~3)	3区SI5方
SK154	6	不明	製炭	SK183	6	不明	落				
SK155	6	弥生(IV 2~3)	方	SK184	6	不明	落				

溝

遺構名	区	時期	備考	遺構名	区	時期	備考	遺構名	区	時期	備考
SD 1	4	古墳以降		SD11	6	不明		SD21	6	不明	
SD 2	4	不明		SD12	6	不明		SD22	6	不明	
SD 3	4	不明		SD13	6	不明		SD23	6	不明	
SD 4	4	不明		SD14	6	不明		SD24	6	不明	
SD 5	6	弥生(IV 2~3)		SD15	6	不明		SD25	6	不明	
SD 6	6	弥生(IV 2~3)		SD16	6	不明		SD26	6	不明	
SD 7	6	不明		SD17	6	不明		SD27	6	不明	
SD 8	6	不明		SD18	6	不明		SD28	6	不明	
SD 9	6	不明		SD19	6	不明		SD29	6	不明	
SD10	6	不明		SD20	6	不明		SD30	6	不明	

鍛冶炉

遺構名	区	時期	備考	遺構名	区	時期	備考
鍛冶炉1	4	奈良	鍛冶	鍛冶炉3	6	奈良	鍛冶
鍛冶炉2	4	奈良	鍛冶	鍛冶炉4	6	奈良	鍛冶

凡例 IV：弥生中期後葉、V：弥生後期、VI：弥生末、天：天神川編年の略

方：方形土坑、貯：貯蔵穴、落：落とし穴、鍛冶：鍛冶関連遺構、製炭：製炭土坑

※ピットは多数に及ぶため掲載していない。遺跡全体でP320まで設定されている。

居跡5棟、弥生時代後期中葉の竪穴住居跡1棟、古墳時代前期中葉の竪穴住居跡1棟、古墳時代中期前葉から中葉の竪穴住居跡4棟、奈良時代の竪穴住居跡2棟、鍛冶関連遺構(竪穴建物1棟、掘立柱建物跡2棟、鍛冶炉2基、土坑3基)、時期不明の土坑38基(うち貯蔵穴3基、落とし穴23基)と多数の遺構が検出された。弥生時代中期後葉の遺構は2区に近接した段状遺構1基と土坑2基がIV-1である以外はすべてIV-2~3であり、1区から4区北端までがIV-1の集落域で、IV-2~3の集落はそこから南に限られることが明らかとなった。墳丘墓は県内最古級に位置づけられ墓上祭祀施設の存在も確認された。また平面形態が方形をなす土坑が特徴的に認められたことから「方形土坑」として分類し、その存在に注意が必要である点を喚起した。さらにこれまで未発見であった古墳時代以降の集落域も確認され、奈良時代には鍛冶作業を行っていたことも判明した。

5区は4区と同時に調査を開始し、5月16日に現地調査を終了した。弥生時代中期後葉(IV-2~3)の段状遺構1基、土坑1基を確認した。(湯村)

参考文献

- 高尾浩司・浅田康行編2007『梅田萱峯遺跡1』鳥取県埋蔵文化財センター
- 湯村功・小口英一郎編2007『梅田萱峯遺跡II』鳥取県埋蔵文化財センター
- 小口英一郎・濱本利幸編2007『梅田萱峯遺跡III』鳥取県埋蔵文化財センター
- 湯村功・小山浩和編2008『梅田萱峯遺跡IV』鳥取県埋蔵文化財センター



第13図 3・4・6区調査前地形測量図



第14図 4・6区調査後地形測量図